昭和57年度

遺跡現地説明会資料

神戸市教育委員会

目　　次

1．新方遺跡……1

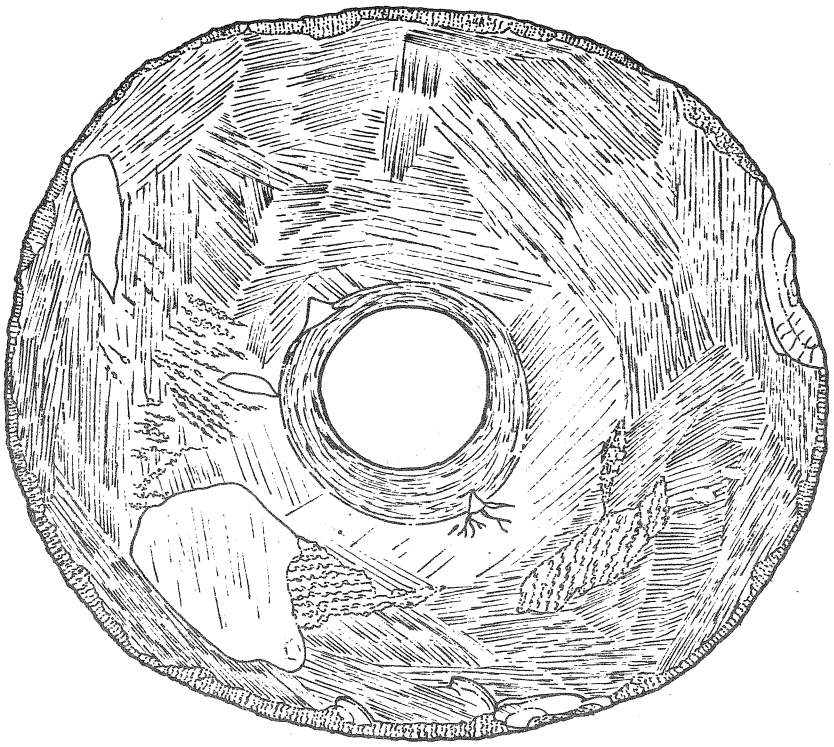
2．東求女塚古墳……23

3．東石ケ谷１号墳……43

4．居住・小山遺跡……59

5．西戸田遺跡……75

新方遺跡現地説明会資料



昭和５７年７月２５日

神戸市教育委員会

新方遺跡の発掘調査事業は、株式会社大協の協力を得て実施しました。
発掘調査に当っては、野地脩左・小林行雄・檀上重光の三先生に指導を受けました。

表紙は、本遺跡出土の環状石斧　（原寸大）

1. はじめに

新方遺跡は昭和４５年度に兵庫県教育委員会が，山陽新幹線の建設工事に先立って行った分布調査・確認調査によって発見された遺跡です．その後，宅地造成工事や工場建設工事に伴う小規模な発掘調査が実施されてきました．神戸市教育委員会は昭和５１年度，遺跡の性格を明らかにするために，玉津町西河原から新方一帯にかけて試掘調査を実施しました．その結果，当遺跡は弥生時代前・中・後期，古墳時代，奈良時代・平安時代・鎌倉時代と続く，大複合遺跡であることがわかりました．その後の調査でも数多くの土器や石器が発見されており，当遺跡が神戸市内でも重要な遺跡であることが知られています．

今回の調査は昭和５７年４月１６日から開始し，約３３０m^2の範囲で耕土下６５cm～３２０cmの深さで調査を行いました．

2. 周辺の地形と環境

明石平野は，その中央部を流れる明石川，その支流である伊川・枦谷川などによって

形成された沖積地です．明石川は北区山田町藍那付近に源を発し，右岸には印南台地と呼ばれる高位段丘面があり，平野町黒田・常本地区には発達した低位段丘面があります．玉津町居住・田中，伊川谷町別府・池上付近では扇状地状の地形を呈し，このあたりから沖積地が明石海峡に向かって広がっています．

新方遺跡位置図

この明石平野に人類の痕跡が始めて残されるのは，明石市西八木で発見された明石原人と呼ばれる人類で，今から約２０万年前の旧石器時代のことです．また，今から約２万年前の後期旧石器時代に使用されていたナイフ型石器と呼ばれる石器が神戸市内各地で発見されていますが，生活の痕跡を示すような遺跡は発見されていません．

縄文時代の遺跡としては，垂水区内では前期末の大歳山遺跡，中期の舞子浜遺跡，後期の元住吉山遺跡などがあります．元住吉山遺跡では後期の後半の土器が炉址と共に発見されています．

弥生時代に入ると，明石平野には数多くの遺跡が出現してきます．玉津町吉田遺跡は，近畿地方でも最も古い時期の遺跡の一つで，早くから明石平野において稲作を主とする農耕が定着したことが知られます．弥生時代前期の遺跡としては，この他，新方・片山・今津・居住・常本遺跡などがあり，前期の段階で平野の全域に農耕を営む集落が広がったと思われます．中期に入る

と遺跡数は増加し，青谷などの丘陵上にも集落が出現します．このような丘陵上の集落は中期の後半に明石川・伊川・枦谷川の中流域にも数多く出現します．西神５０地点・如意寺裏山・頭高山遺跡などが代表的な遺跡です．後期の遺跡としては吉田南遺跡・高津橋岡遺跡などが代表的なものです．

古墳時代の遺跡としては，先の吉田南遺跡や池上，口ノ池遺跡などから集落址が発見されています．

また，古墳では天王山４号墳が４世紀の中頃に出現し，瓢塚（ひさごづか）・王塚などの前方後円墳が造られるようになります．

６世紀代には西神ニュータウン内や平野町印路・平野町中村などで小形の円墳が群をなす，「群集墳」が形成されています．

歴史時代の遺跡は明石平野各所にあり，奈良・平安時代の郡衙（ぐんが）と考えられる吉田南・出合遺跡などがあります．

3. 調査の概要

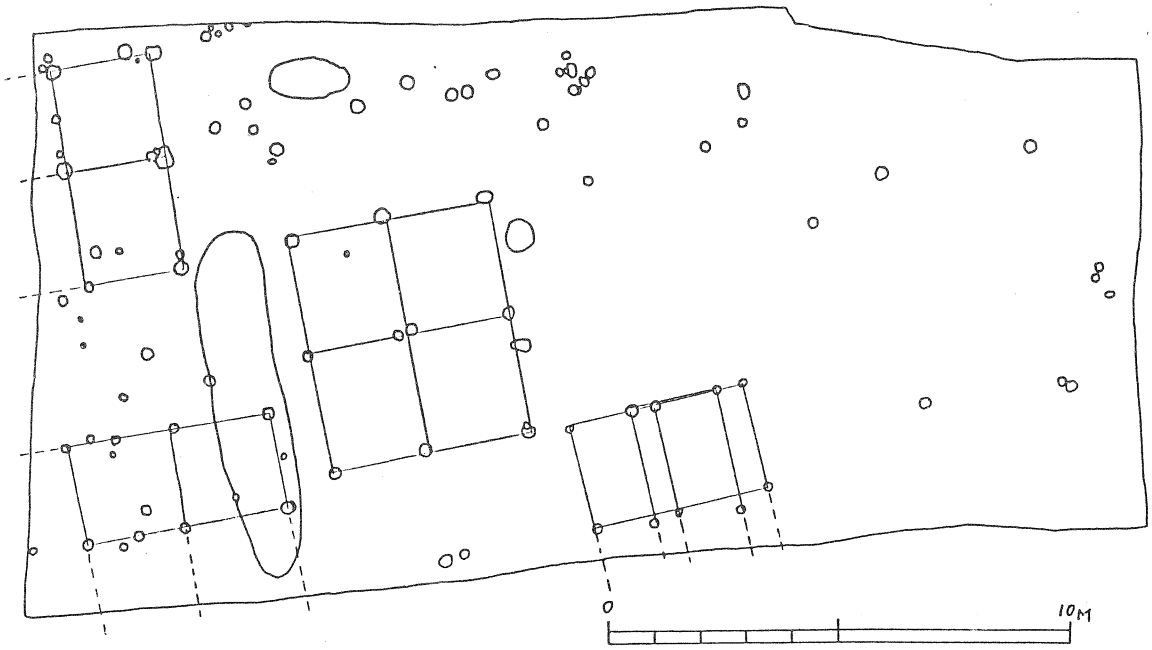
今回の発掘調査は昭和５７年４月１６日より，約３３０㎡を対象にして実施しています．

今回の調査では，鎌倉時代（１３世紀），古墳時代（５世紀～６世紀），弥生時代中期　の遺構面が検出されています．

A）鎌倉時代

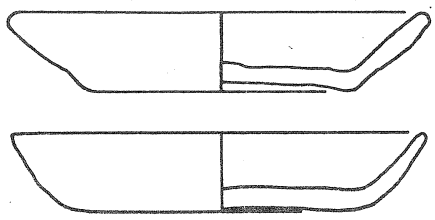
この時代の遺構としては掘立柱建物址５棟・溝１条・土坑１基が見つかっています．

第１遺構面

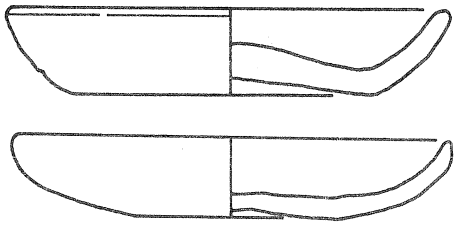


掘立柱建物址は調査地区外に延びているため，正確な規模については不明です．

数か所の柱穴からは柱根が発見されまし



須恵器皿



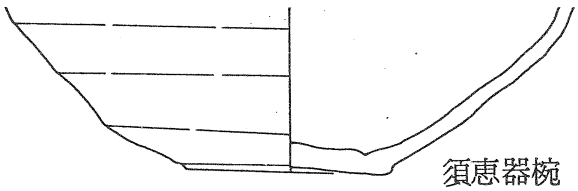
土師器皿

た．また，「下駄」が柱穴の一つから出土しています．

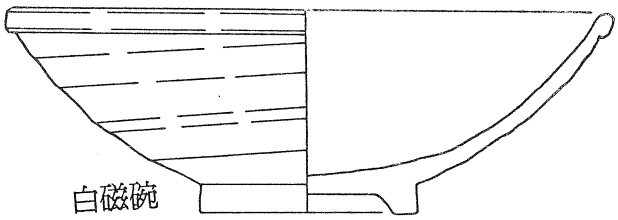
溝は幅1.8ｍ，長さ8ｍほどのもので，深さは25cm内外の浅いものです．この溝と柱穴の一部が重複しており，溝が古く，掘立柱建物址が新しいということがわかっています．

土坑は径60cm不整円形のもので深さ60cmを測ります．

この時期の遺物の多くは，土坑・溝から出土していますが，柱穴の中からも出土しています．土坑からは，須恵器捏鉢（こねばち）・椀・皿，土師器坏・皿・羽釜などが出土しています．溝からは，須恵器椀・皿，土師器椀皿と共に中国より輸入された白磁碗が出土しています．



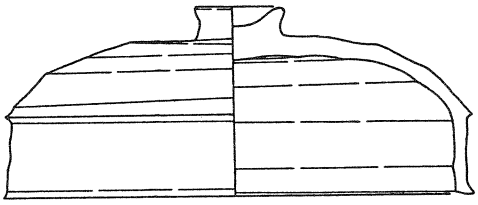
須恵器椀



白磁碗

B）古墳時代

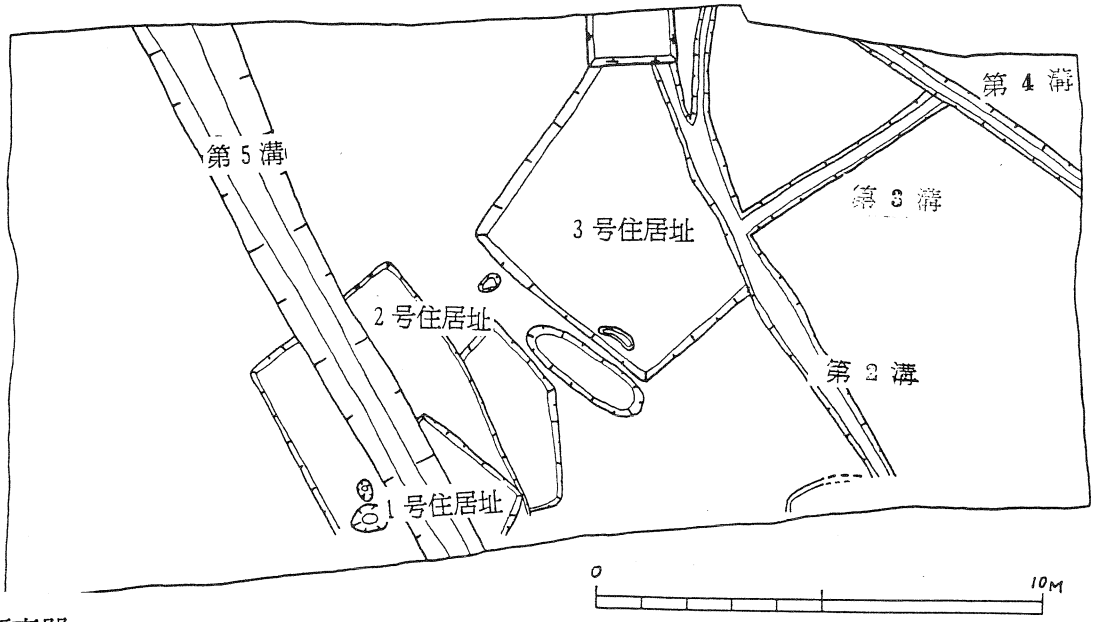
古墳時代の遺構は5世紀中頃から6世紀後半まで時期的にも巾があります．遺構に伴わない遺物には5世紀前半のものも多く，かなり長期にわたって周辺部に遺構が存在したものと考えられます．



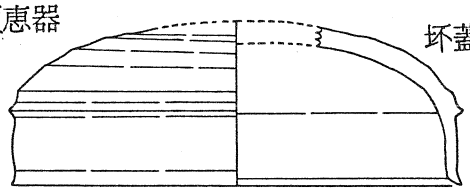
須恵器　坏蓋

今回，検出した遺構は竪立住居址3棟，溝4条，土坑3基です．

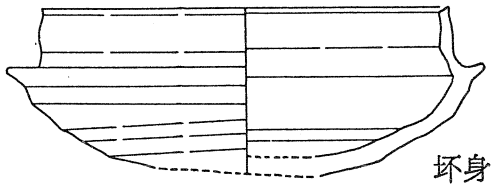
第3遺構面



須恵器



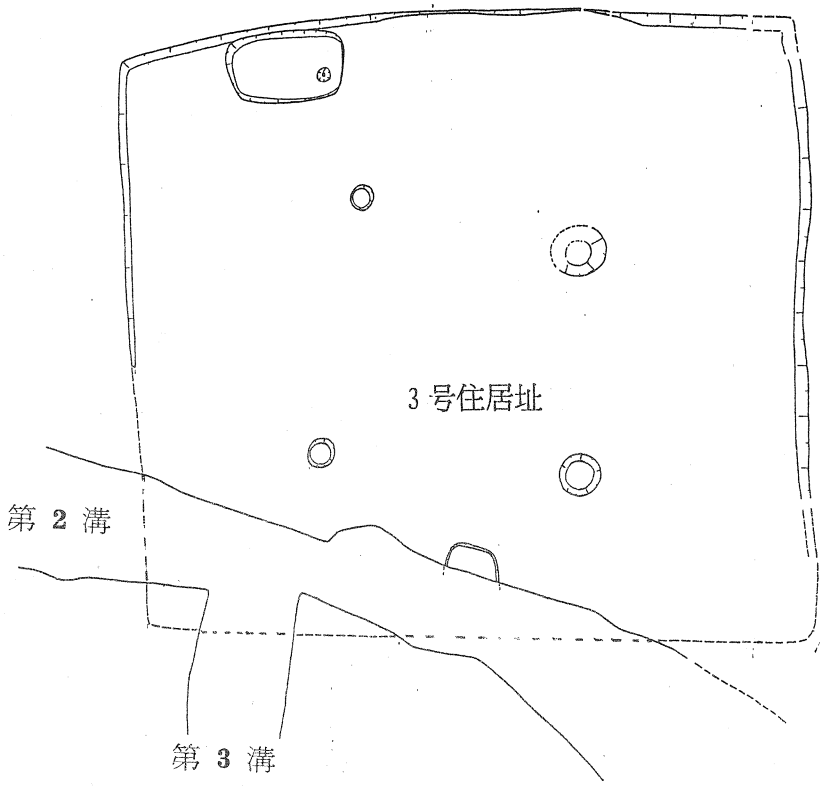
坏蓋



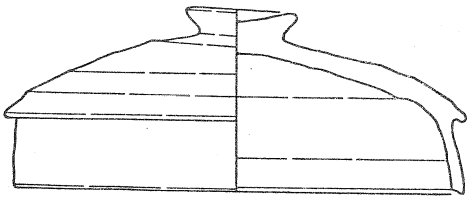
坏身

この住居址の時期は第1号住居址（5世紀中頃），第2号・3号住居址が5世紀後半のものです．

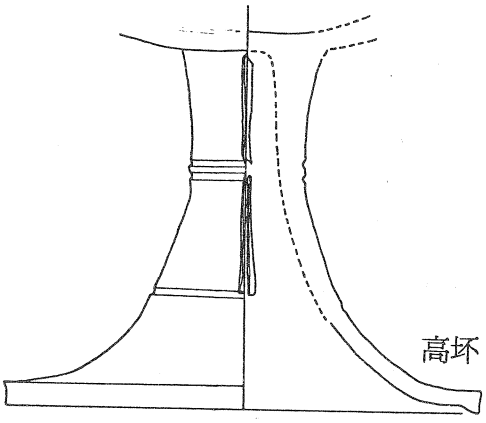
3号住居址からは多量の玉類，玉類未完成品が出土し，玉造工房址と考えられます．



須恵器



坏蓋



高坏

2 号住居址からも少量ですが玉類が発見されていますので，これも工房址と考えられます．1 号住居址では，玉類は発見されていません．

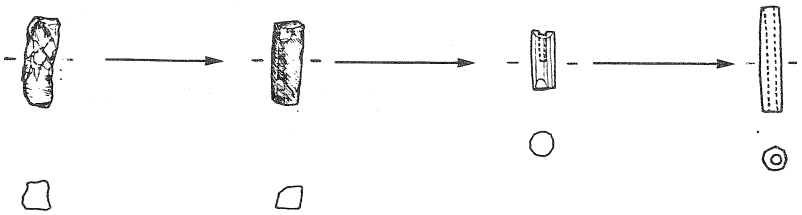
ここで発見された玉類の石材は滑石・碧玉・緑色凝灰岩などを素材としたものです．完成品・未成品はすべて勾玉・管玉・臼玉などの類で，原石・未成品・製品の各段階のものがあり，その工程を知ることができます．4 条の溝のうち，第 2 ～ 4 溝は，ほぼ 5 世紀の後半のものと考えられます．ま

た第5溝は6世紀後半のものです．

玉造の工程

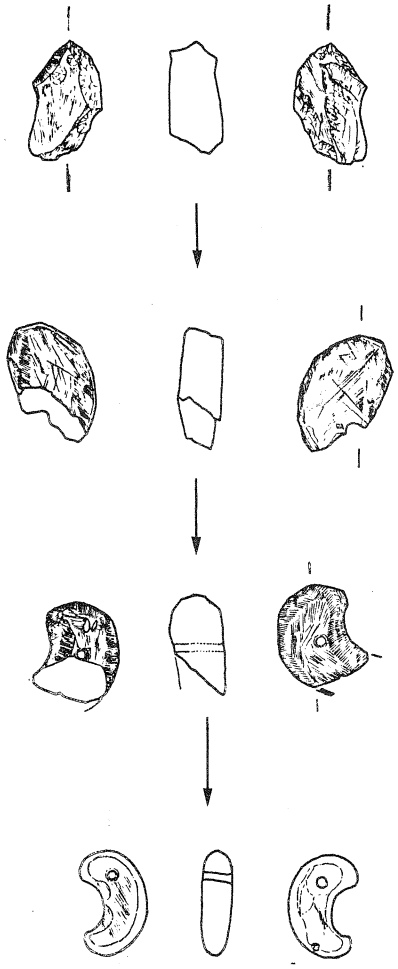
新方遺跡から出土した玉類や玉類の未成品からは，前述したように，原石～未製品～製品があり，玉の製作工程を知ることができます．

- まず，玉を作るのに適した大きさに採取した原石を割ります．
- 管玉をつくる場合，その石を管玉の基本的な形である四角柱に割ります．
- その四角柱から，さらに円柱状にするため表面や角を削ります．
- ほぼ円柱状になってきたところで，上下両面から，穴を開けます。
- 穴を開ければ，角を砥石でみがいて，正円柱状に仕上げます．



管玉製作工程

勾玉製作工程



勾玉も形は異なりますが，管玉とほぼ同じ様な工程をへて，作られたと思われます．

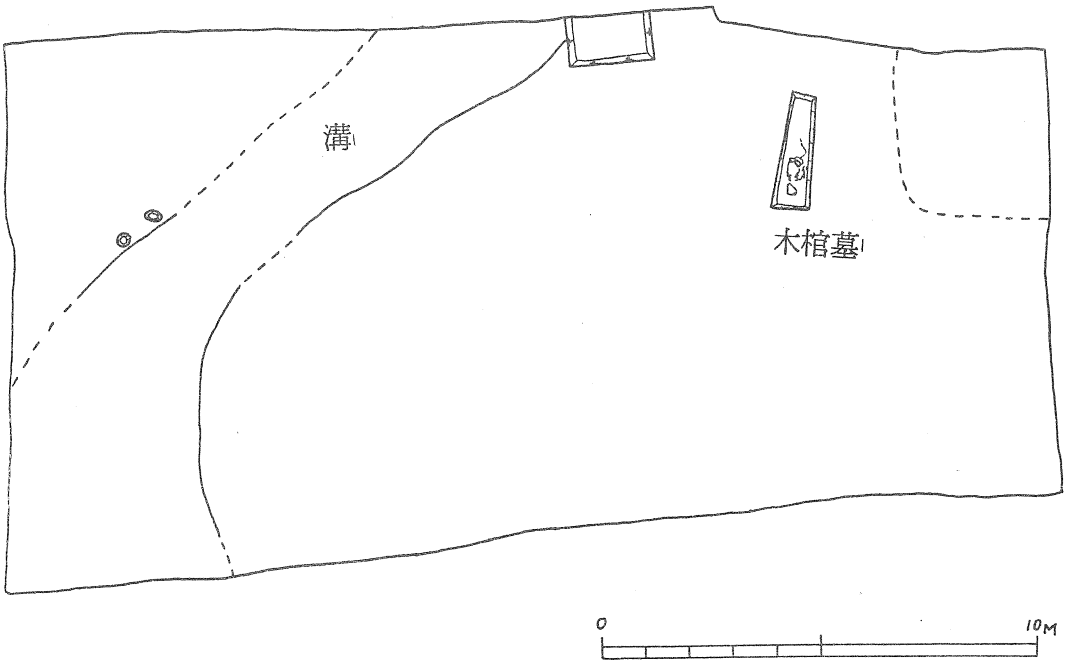
- まず，原石を適当な大きさに割ってから，勾玉の基本的な形である半円状に割ります．それからさらに，三日月形に打ちかきます．
- 最後に穴を開け，全体に丸みをおびる様にけずり，みがいて仕上げます．

c）弥生時代

今回の調査では，前期から後期までの各時期の土器が出土しています．この内，前期と後期のものは，ごく少量で遺構も発見されていません．検出した遺物の大半は中期のものですが，遺構は中期中頃～後半のものばかりです．

現在までに発見された遺構は溝1，木棺墓1基，焼土を伴う落ち込み（住居址？）

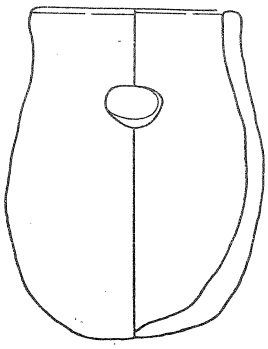
第４遺構面



などです．

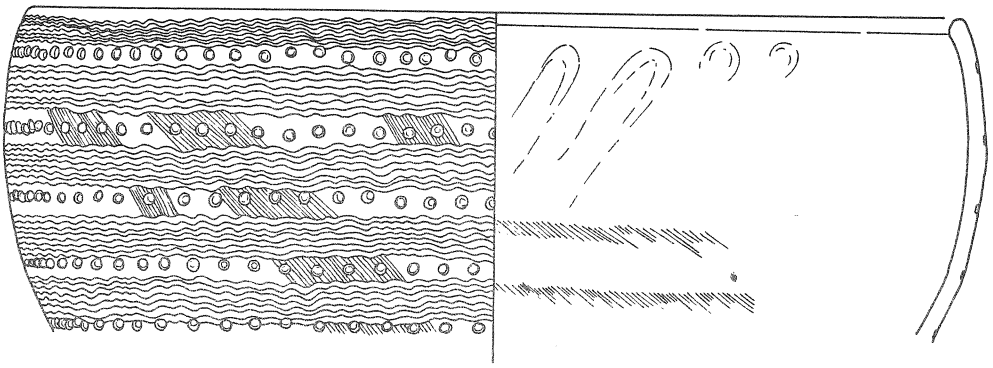
今後，調査の進行によっては，遺構の数は増加するものと思われます．

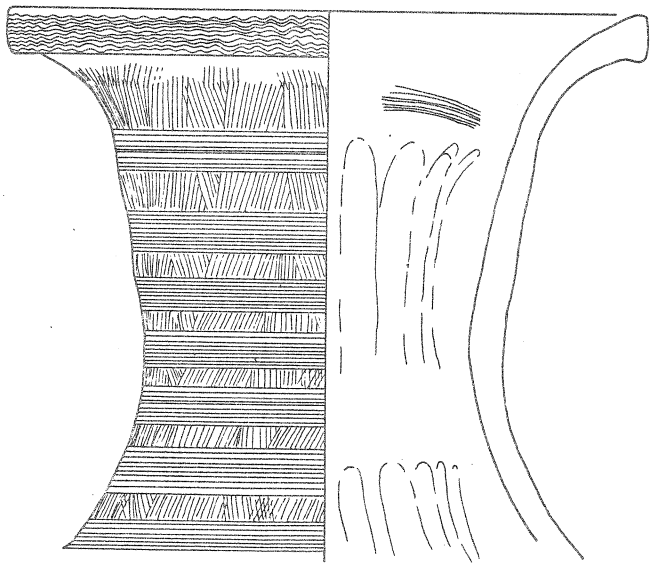
溝の規模は幅３ｍ，深さ３０～８０cmで，溝中の上層では中期中頃の壷・甕・高坏などの器種が何層にも重なった状態で出土しました．出土した土器の中には飯蛸壷（いいだこつぼ）が約２０個ほどまとまって出土しています．現在，下層を調査中ですが，まだ，かなりの土器が出土しています．

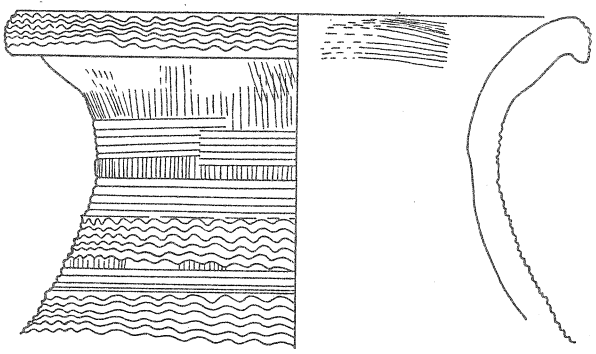


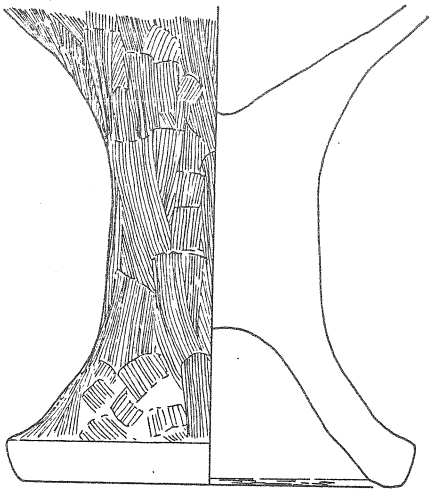
飯蛸壷

弥生時代中期前半の土器

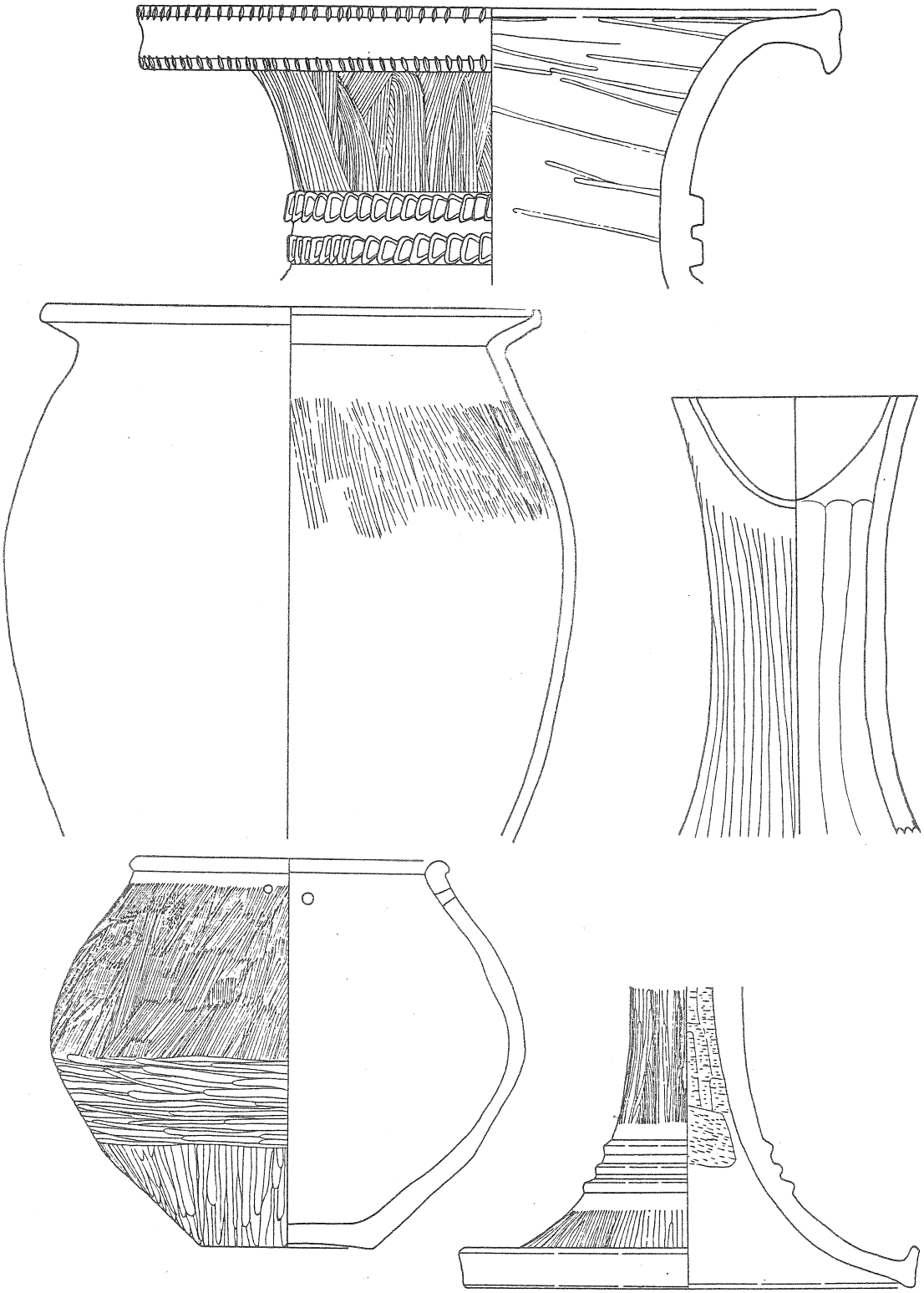


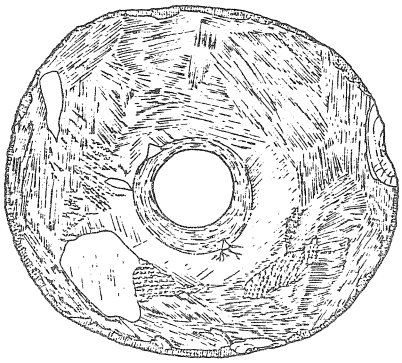




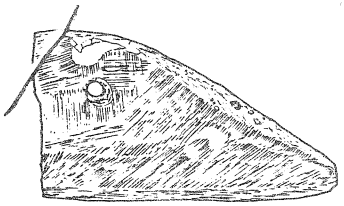


弥生時代中期中頃の土器

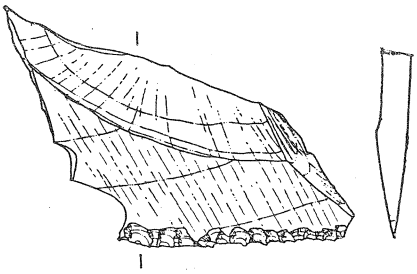




環状石斧



石包丁



不定形刃器

木棺墓は幅６０cm，長さ１８０cmの木棺内に遺骸を安置したもので，人骨の残存状況は良好で，頭骸骨・脊椎・骨盤・肋骨・手骨・大腿骨・足骨などが残っています．頭を西に向け，顔はやや北側に向いており，仰臥屈葬です．両大腿骨の間に大きな石を検出しました．人骨よりも少し浮いた状態で検出したため，棺蓋上に置かれたものと考えられます．時期については副葬品などがなく，よくわかりませんが，弥生時代中期後半～後期のものと考えています．埋葬された人の年令・性別については，今後調査しますので，はっきりすると思います．

中期前半の土器は主に調査区南半部に集中しています．弥生時代の生活面は南に向って傾斜しており，最も深い所で耕土下３ｍを超えています．この付近の深い部分には炭化物を多く含む粘土層がみられ，この中に獣骨や木材と共に土器が出土しています．炭化層の中からは炭化米や犬・鹿・猪などの骨が数多く発見され，当時の自然環境や当時の人々の食生活を知る上で重要な資料が出土しています．

まとめ

新方遺跡では，これまでの調査によって各時代にわたる4枚の遺構面（生活面）が確認されています．

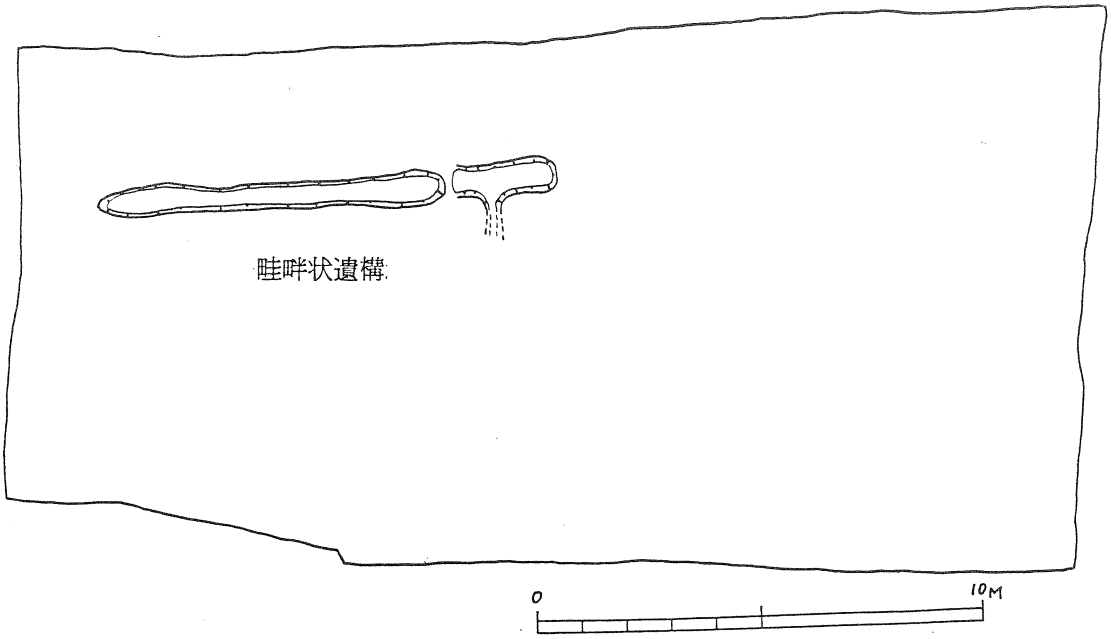
第Ⅰ遺構面

建物址，それに，生活用具が多量に出土しているところから鎌倉時代の集落址の一部分であると考えられます．

第Ⅱ遺構面

奈良時代か鎌倉時代の畦畔状遺構が検出されましたが，性格等は不明です．

第2遺構面



第Ⅲ遺構面

第Ⅲ遺構面直上に堆積している遺物包含層と第Ⅲ遺構面からは，玉類の未製品，生産過程で出る石材のはく片などが多量に出土しています．石材は滑石・緑色凝灰岩・碧玉が大部分を占めています．

また竪穴住居址の床面からも多量の未完成品，はく片が出土しており玉造工房址であることは確実です．

一般に玉造を行っていた遺跡は玉造遺跡と呼ばれていますが，新方遺跡も玉造遺跡ということができます．

玉造遺跡としては新方遺跡が県下ではじめての発見です．

現在畿内では，玉造遺跡と考えられている遺跡が数か所（奈良県曽我遺跡・布留遺跡，大阪百舌鳥遺跡，陵南遺跡，舳松南高田遺跡）知られているにすぎません．

これらの遺跡が発見されるまでは，玉類の製造址は山陰地方や北陸地方（原石が産出する．）で知られており，これらの地方から畿内にもちこまれていたと考えられてきました．近年畿内で玉造遺跡と考えられる遺跡が発見されるようになり，畿内でも玉類が造られていたと考えられるようになってきています．

（例　舳松南高田遺跡）

今回の工房址の発見は，これを裏付けるものとして学術上重要な発見です．

今のところ出土品については未整理のため詳細に述べることができませんが，原材料から未製品，完成品までの製作工程がよくわかる資料が得られています．

このことは当時の玉造の生産形態を考える上で重要な資料が得られたことになります．

また，この事実から新方遺跡まで原石をどこから運んできたか．

新方遺跡で生産された玉類は，どのような方法でどのあたりまで運ばれているか．

この時期の集落址は市内でも何か所か知られているがなぜ新方遺跡で玉造が行われるようになったのか．などといった問題提起がなされてきます．

今後，新方遺跡や周辺遺跡を調査する場合に重要な問題を提起したことになり今回の調査の成果は極めて大きいといえましょう．

第Ⅳ遺構面

第Ⅳ遺構面の溝は人工的なものと考えられ，弥生時代中期の土器が溝中に放棄され

た状態で多量に出土しました．

また木棺墓中からは人骨が良好な残存状態で検出されました．弥生時代の完全な人骨出土例は県下で2遺跡目です．

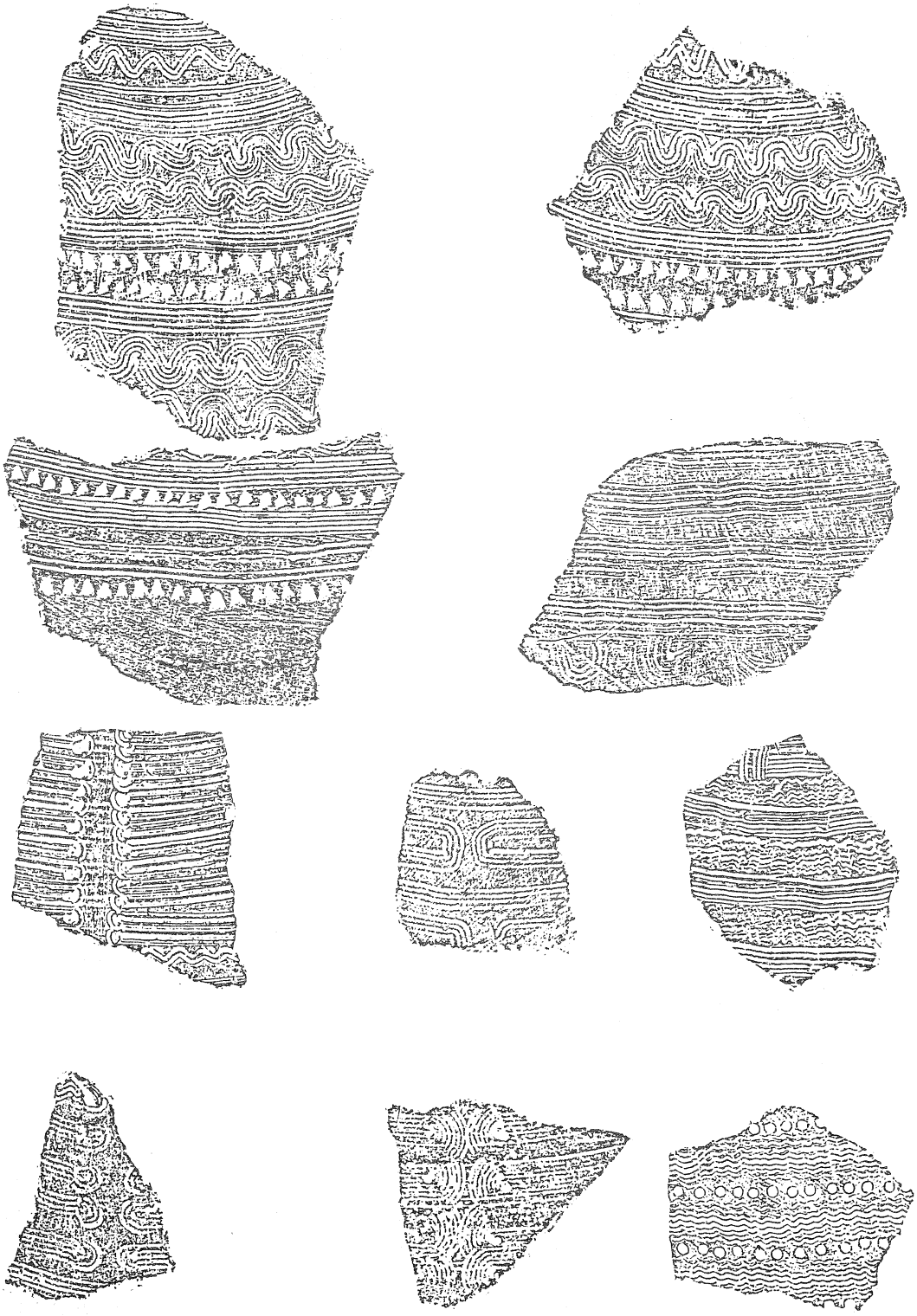
今まで市内でも人骨の一部が発見されることはありましたが（楠荒田町遺跡），全体の形を残した人骨の出土例ははじめてです．

第Ⅴ遺構面

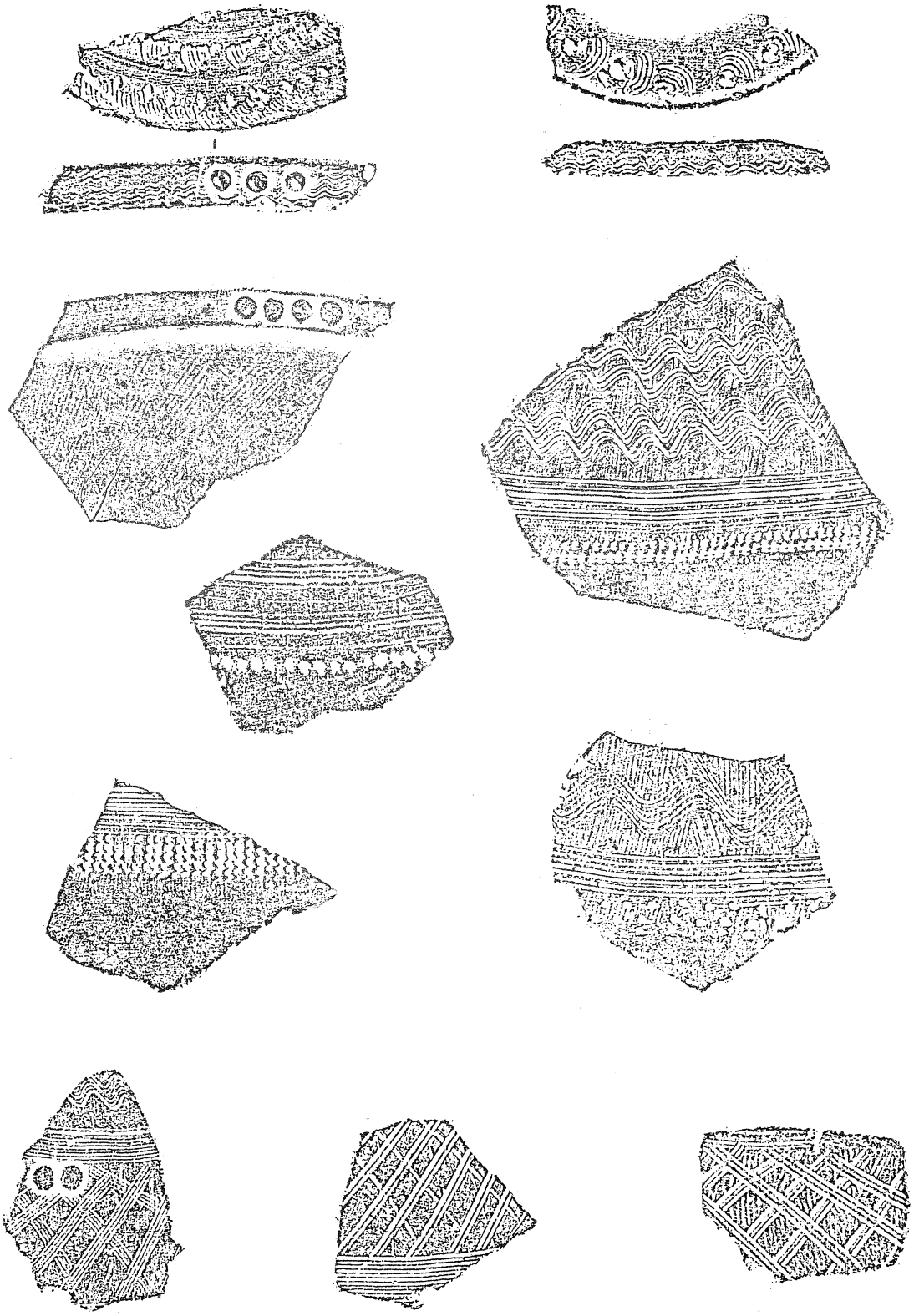
現在調査続行中のため，第Ⅴ遺構面については今後の報告にゆずりたいと考えています。

以上のように市内でも前例をみない新発見の遺構・遺物さらに多量の出土遺物・5面も存在する遺構面など，新方遺跡は学術上価値の高い遺跡といえます．

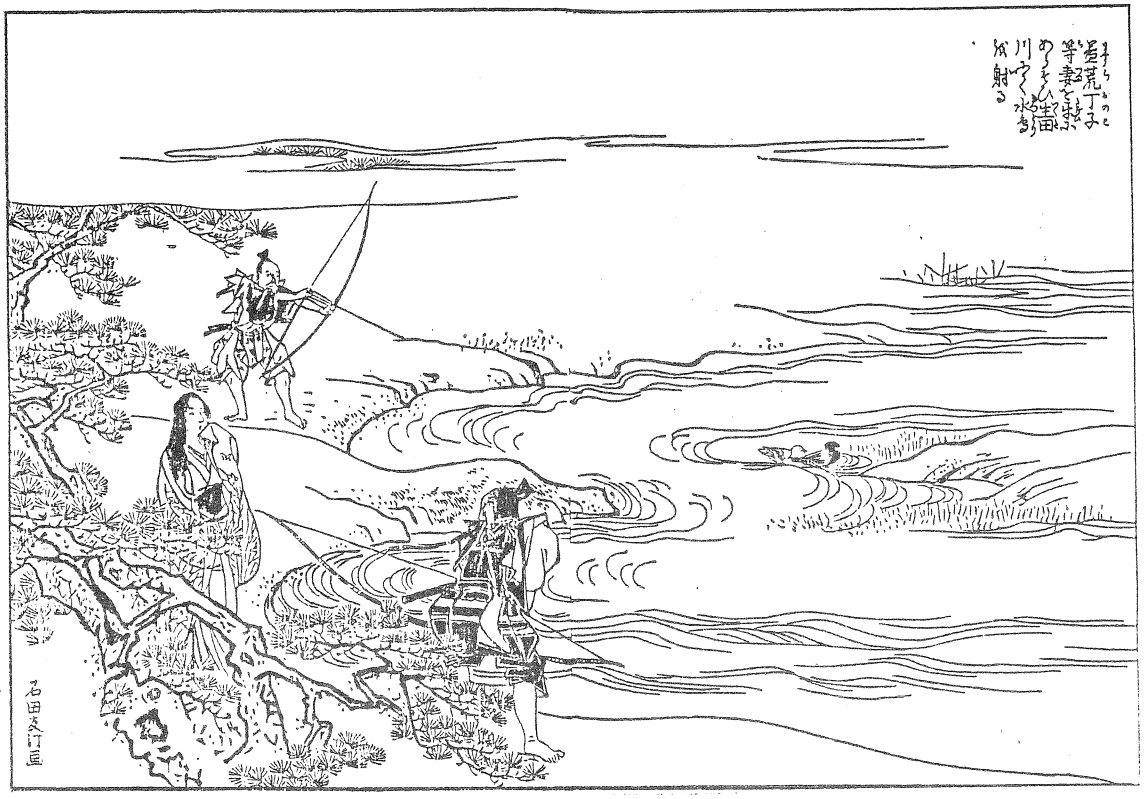
弥生時代中期前半の土器文様



弥生時代中期中頃の土器文様



東求女塚古墳現地説明会資料



昭和57年9月26日

神戸市教育委員会

表紙説明

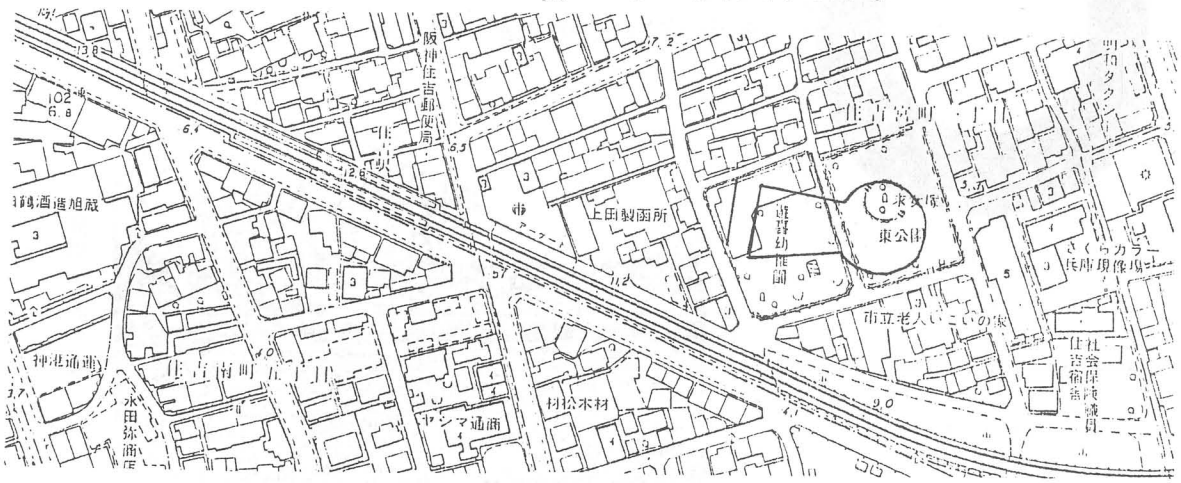
摂津名所図絵にのせる蒐原処女をめぐる争いの図

調査について、神戸市文化財専門委員野地脩左、小林行雄檀上重光の三先生の指導を得ました。また、地元の方々の種々の協力を得ました。

1　菟原（うばら）処女の悲恋伝説と東求女塚古墳

東求女塚古墳は、阪神住吉駅の東方２００ｍに位置している古墳です。古墳は、すでに墳丘を削平され、神戸市立遊喜幼稚園と求女公園が現在その上に築かれています。

東求女塚古墳は、灘区都通の西求女塚古墳、東灘区御影塚町の処女塚古墳とともに「葦屋（あしや）の菟名負（うなひ）処女」をめぐる悲恋伝説にゆかりのある塚として古来有名です。この悲恋物語は、当時この地方で伝承されていたものが万葉集にとりいれられ、その後大和物語や謡曲等に歌われ、多くの人々に親しまれてきました。万葉集にのせる高橋虫麻呂の歌では、処女の墓を中におき、壮士（おとこ）の墓をこなたかなたに築いたといわれています。東求女塚古墳は、菟名負処女をめぐって争った二人の男性のうち、信太（しのだ）壮士の墓だといつの頃からかいわれています。



2　その後の東求女塚古墳

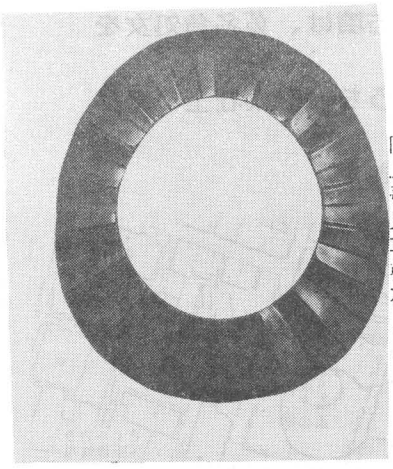
東求女塚古墳は、明治の頃までは墳丘が残っていましたが、この古墳の土が壁土に適した赤土であったため、掘り荒らされ、その際銅鏡６面、車輪石、剣、玉、人骨、木片等が出土しました。その後明治３３年頃２面の鏡片が出土したといわれています。出土した鏡は、三角縁神獣鏡、画文帯神獣鏡、内行花文鏡ですが、これらは現在、東京国立博物館に保管されています。

後円部の内部主体は、竪穴式石室であったといわれますが、詳細は不明です。

（径二一・七センチ）

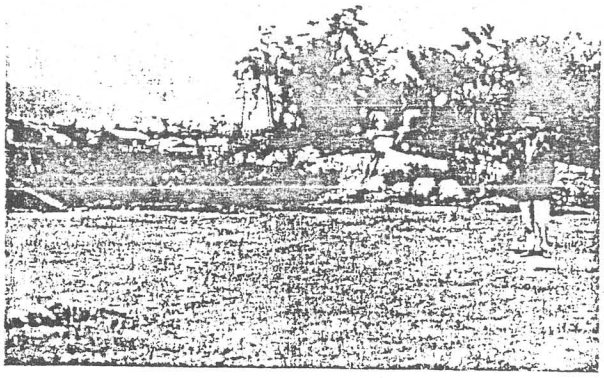
東求女塚古墳 出土
三角縁神獣鏡

その後明治３７年頃、阪神電車の鉄道敷の土取り場とされ、古墳の前方部は削平されてしまいました。古墳の跡地は、大正７年遊喜幼稚園設立とともにその園庭となり、現在に至っています。なお、後円部は昭和３０年頃までは残っていたようですが、これも削平され、その跡地は現在、求女公園になっています。



同上発見車輪石（径約九センチ）

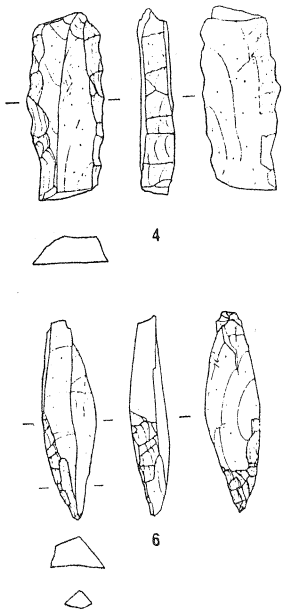
兵庫県史跡名勝天然記念物調査報告第４集より



呉田ノ求女塚

3　周辺の歴史的環境

六甲の山並みを背後に控え、南に海を望む阪神地方は、気候が温暖で、人間の居住には適しており、その跡を示す遺跡が数多く残されています。東灘区内では、数万年前の旧石器時代にまでさかのぼる遺跡は知られていませんが、隣の灘区滝ノ奥遺跡や桜ケ丘遺跡B地点、芦屋市朝日ケ丘遺跡では、旧石器時代のブレイド、ナイフ、尖頭器などが出土しています。



朝日ケ丘遺跡出土の旧石器時代の石器

縄文時代の遺跡としては、芦屋市の朝日ケ丘遺跡、山芦屋遺跡が、この付近では有名ですが、東灘区内でも本山町小路井戸田遺跡から石匙が2点出土しています。そのうち、東灘区でも縄文時代の生活址が発見される日が来るものと思われます。

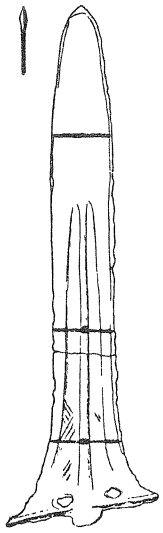
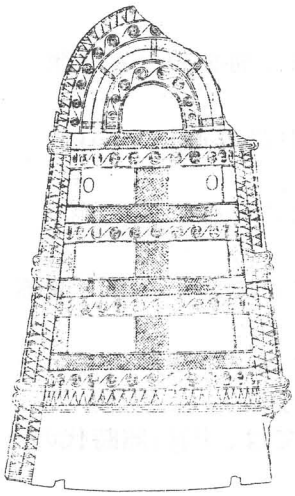


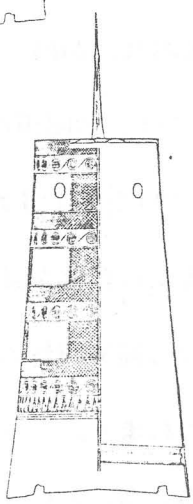
図96　保久良神社遺跡出土銅戈実測図（縮尺約1/4）

新修芦屋市史資料編より

現在の日本社会の基礎を築いた弥生時代に入ると東灘区内でも、かなりの遺跡が知られています。この時代は主に低湿地を利用して、水稲耕作を行っていたと思われますが、六甲山麓や、屋根上に遺跡が点在しています。屋根上の遺跡としては、東灘区内では、赤塚山遺跡、荒神山遺跡、金鳥山遺跡、保久良神社遺跡等が弥生時代中期から後期にかけて存在し、山麓の遺跡としては、坂下山遺跡（中期）、森北町遺跡（後期）、郡家大蔵遺跡（後期）が有名です。

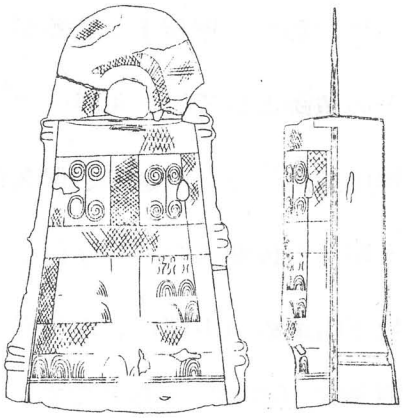
弥生時代前期の土器は、井戸田遺跡や処女塚古墳内





生駒銅鐸実測図

兵庫県分化財調査報告第1冊
「神戸市桜ケ丘銅鐸・銅戈」より



森銅鐸実測図

から出土しており、前期の遺跡が東灘区内にも存在していたものと思われます。

六甲山系南斜面は、青銅器が多く出土したところです。灘区の桜ケ丘遺跡は、銅鐸が14口、銅戈が7口出土したことで、あまりにも有名です。東灘区でも、渦ケ森、生駒、森の各遺跡で銅鐸が出土し、保久良神社境内からは銅戈が出土しています。

このように、弥生時代の東灘区は、青銅器を保有する有力な「ムラ」「ムラ」が、競いあっていたものと思われます。

この弥生時代の発展をうけて、古墳時代に入ると有力豪族は、古墳を築き始めます。御影塚町の処女塚古墳、岡本のヘボソ塚古墳、住吉の東求女塚古墳等が、あいついで作られました。鏡や剣、玉類などの豊富な副葬品から、これらを保持していた支配者の生前の力が、しのばれます。

中期古墳は、東灘区内では、知られていません。後期に入ると、岡本から森北町にかけての山麓に多数の古墳が築造されました。岡本梅林や鴨子ケ原の古墳群が有名ですが、そのほとんどは消滅してしまいました。現在、神戸女子薬大構内に1基残っているだけです。岡本梅林古墳群の中には、小型の家型石棺を収めた

古墳もありました。

この時代の集落址は、東灘区内では、まだ確認されていませんが、御影中町遺跡では、滑石製模造品が5世紀末の土器とともに出土しています。古墳時代の祭祀遺跡の可能性があります。

古代国家が成立すると、この地域は摂津国菟原郡に編入され、大規模な土地の地割が行われたようです。これを条里制とよんでいますが、本山町岡本には、それを示す「八条垣」という字名が残されています。菟原郡衙は御影の郡家大蔵遺跡周辺に存在したと考えられています。

飛鳥時代以降、各地で寺院が建立されます。芦屋では、芦屋廃寺が存在していましたが、保久良神社からも奈良時代の軒丸瓦が出土しており、ここに寺院があった可能性があります。奈良時代には、山陽道も整備され「葦屋駅」がおかれました。

注：現在の神戸市東灘区から芦屋市にかけては、
古代において「葦屋」とよばれていました。

4　今回の調査結果

遊喜幼稚園の園舎改築工事に伴い、東求女塚古墳の規模、施設、その残存状況等を調査するため、昭和57年8月9日から、発掘調査を実施しました。調査面積は、約1200㎡です。

これまでに、明らかになったところでは、古墳は、前方部を北西に向けて作られた前方後円墳で、今回、その前方部と、北側、西側の湟を検出しました。湟の幅は約10m、深さは0.8～1mです。墳丘斜面には葺石が葺かれています。葺石は、花崗岩や、けつ岩などの川原石を用い、基底に根石を置いて、その上に石の面をそろえて順次つみあげてあります。葺石は根石から、ほぼ垂直に立ち上がり、途中で「く」の字状に折れまがり、第一段のテラスへのびているものと考えられます。葺石が垂直に立ち上がるのは、恐らく砂の地山を削平して古墳を築いたための処置と思われますが、他に例を見ない珍しいものです。根石は横積みを原則としますが、中には縦に置いた例も見られます。

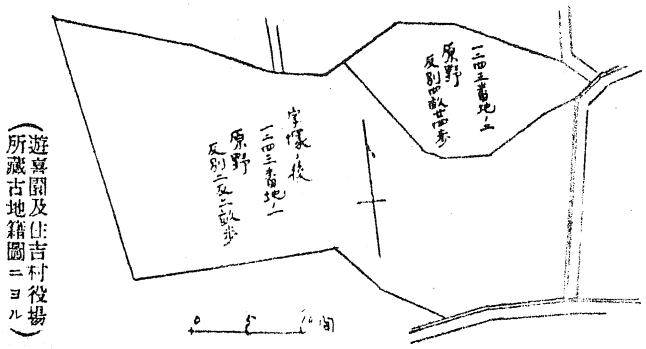
東求女塚古墳
葺石断面図

明治の地籍図によると、古墳の全長は約44間（80m）、後円部は約26間（47m）、前方部幅は約23間（42m）、前方部長は約23間（42m）です。今回の調査では、そのうち、前方部幅36m、前

方部長3／mが明らかになっています。

求女塚地籍図

兵庫県史跡名勝天然記念物調査報告第4集より



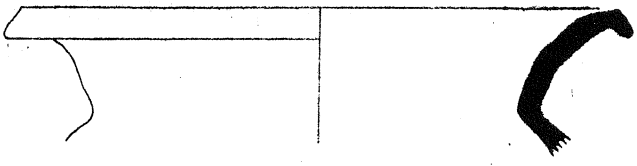
第六圖 住吉村吳田ノ原求女塚地籍圖

なお、古墳の墳丘を掘りこんで、戦時中の防空壕が作られていました。長さ7m、幅2mの木の部屋で船の廃材や電柱を利用して作られたといわれています。その中には、瓦や陶器片とともに焼夷弾も捨てられていました。防空壕の横には、肥桶や20匹の犬の骨を捨てた桶もありました。戦時中の生活を示す資料といえます。

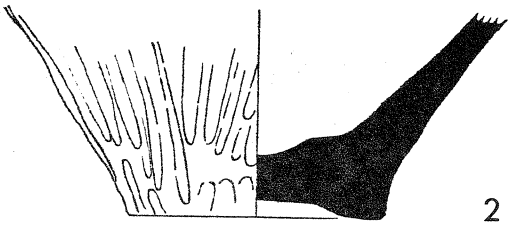
5、出土遺物

今回出土した遺物は、それ程多くありません。古墳時代の層に至る前に、平安時代末から鎌倉時代にかけての土器を含む層があり、そこから須恵器捏鉢(こねばち)、甕、壺、土師器小皿、堝、羽釜、黒色土器等の破片が出土しています。これらは、いずれも小片で、復元できるものはありません。

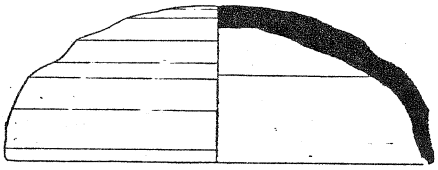
崩落した葺石上や周濠内からは、古墳時代の須恵器（坏、坩、甕）や土師器（高坏、甕）土錘などが



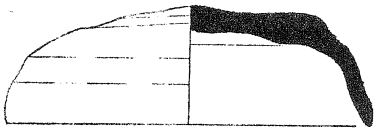
1 弥生土器



2 弥生土器

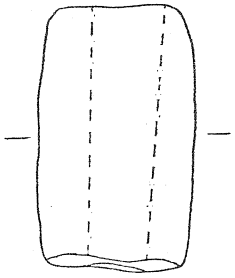


3

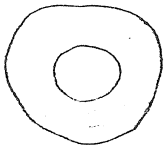


4

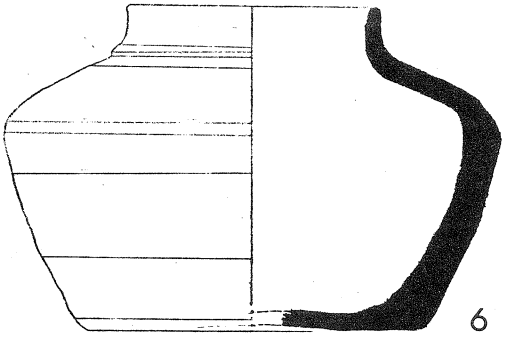
須恵器坏



5

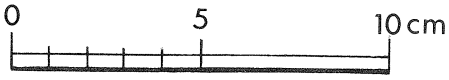


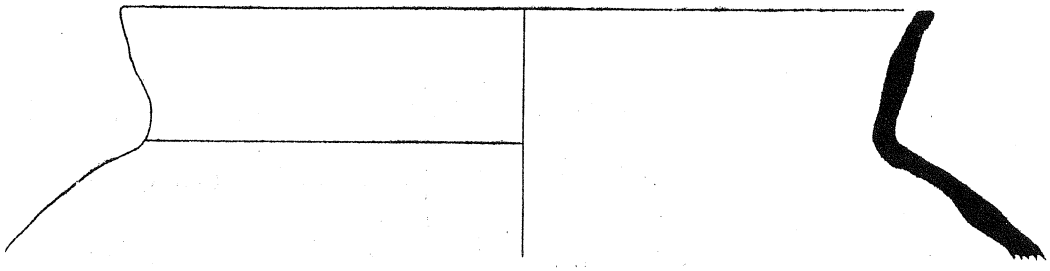
土錘



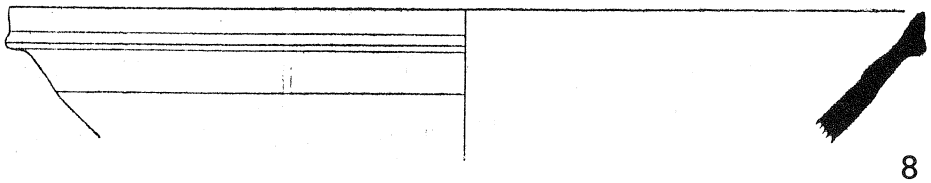
6

須恵器坩



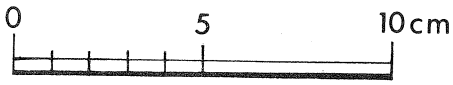


土師器　7



8

須恵器捏鉢



出土しています。目下、整理中で、詳しいことはわかりませんが、須恵器は、6世紀～7世紀にかけてのもので、土師器は、5世紀代のものと思われます。

古墳の盛土内からは、弥生土器（Ⅳ様式）が出土しています。

なお、埴輪は出土していません。

6、まとめ

東求女塚古墳は、これまで出土した遺物から、非常に古い古墳で、4世紀後半代に築造されたと考えられてきました。しかし、今回の調査結果から、前方部の幅が広く、しかも濠を持つという5世紀代の古墳の要素も指摘できます。たしかに埴

輪は出土していませんが、これを、この他域の特色（岡本のヘボソ塚古墳にも埴輪はありません。）と考えると、東求女塚古墳は、従来考えられていた築造時期より、若干時期が新しくなる可能性があります。

菟原処女の悲恋伝説に関わる三古墳の中では、処女塚古墳が一番古く、次いで東求女塚古墳、西求女塚古墳の順で築造されたと考えられます。これら海岸沿いの古墳と岡本のヘボソ塚古墳のような山沿の古墳との関係を考えると、当時の集落址が山麓沿いに点在していたことを思えば、ヘボソ塚古墳は在地の古墳であり、海岸沿いの古墳は、海を意識して作られている古墳と考えられます。

当時の主要交通路が海路であったことを思えば、海上交通と何らかの関係のある集団の古墳かもしれません。

これらの古墳の相互関係を考えていくことによって古墳時代前期の菟原地方の歴史にせまることができると思われます。

最後になりますが、東求女塚古墳は、全長約８０ｍで現存する神戸市内の古墳の中では第４位の古墳です。

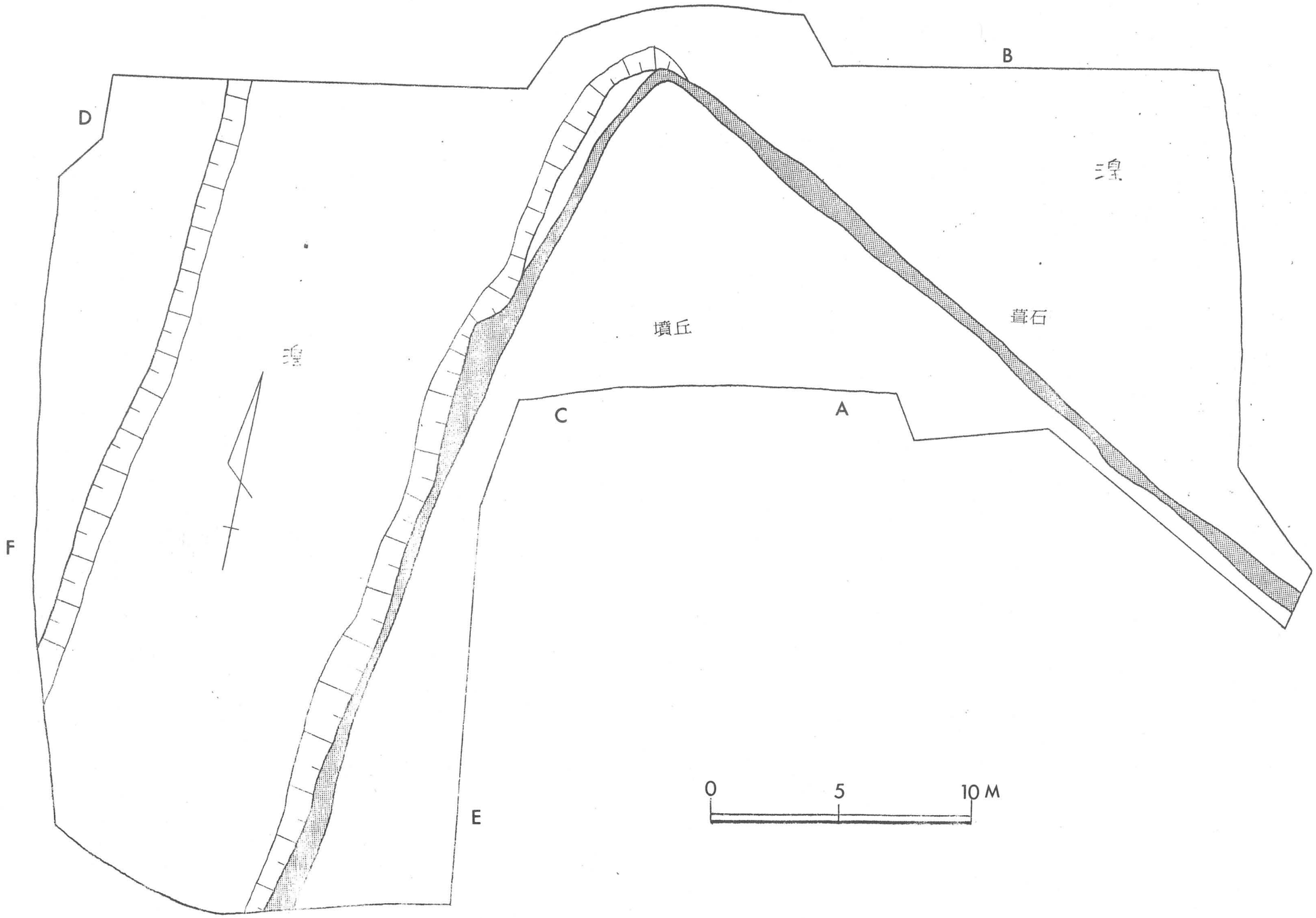
灘区
神戸市
東灘区
東灘区
東灘区
灘区
灘区
芦屋市
東部市場
深江浜町
阪九フェリー発着所
東神戸港
川鉄建材工業
魚崎浜町
神戸製鋼工場
神戸製鋼工場
御影浜町
住友油槽所
住吉浜町
灘浜町
神戸商船大
フェリーセンター発着所
本住吉神社

周辺遺跡地名表

番号	遺跡名	墳形	規模 全長	出土遺物等	備考
1	東求女塚	前方後円	西面 約80m	銅鏡6面、車輪石、刀	一部残存
2	処女塚	〃	南面 約69m	葺石、箱式石棺、勾玉	現存
3	西求女塚	〃	東面 約90m		〃
4	坊ケ塚	〃	南面 約40m	詳細不明	消滅
5	扁保曽塚	〃	西面 約60m	銅鏡6面、石釧 車輪石、玉類	〃
6	鴨子ケ原 群集墳			詳細不明	〃
7	伊賀塚			〃	〃
8	岡本梅林 群集墳			刳抜小型石棺 家型石棺、刀、土器	〃
9	生駒群集墳 (神戸女子薬大構内)	円		横穴式石室	半壊
10	城山南麓 群集墳	〃		〃	〃
11	三条群集墳				
12	一王山			銅鏡2面、勾玉、鉄鏃 管玉、小玉、甲冑	消滅

番号	遺跡名	時期	立地	検出遺構・出土遺物等
13	滝ノ奥	旧石器～室町	尾根	経塚、火葬墓、掘立柱建物、和鏡、古銭、経筒、独鈷杆
14	伯母野山	縄文後期 弥生中期	山頂 山腹	住居址、壷棺、土器、石器、鉄器
15	桜ケ丘B	旧石器 弥生中期	尾根	住居址、土器、石器
16	桜ケ丘	弥生	山腹	銅鐸14口、銅戈7口
17	桜ケ丘 (申新田)	縄文前期	山腹	(玦状耳飾)

番号	遺跡名	時期	立地	検出遺構・出土遺物等
18	篠原	縄文晩期 弥生中、後期	山麓	土器
19	郡家大蔵	弥生後期 奈良、平安		掘立柱建物、土器
20	赤塚山	弥生中期	山腹	土器
21	荒神山	弥生中、後期	尾根	住居址、土壙、石器、土器
22	岡本梅林	弥生	山腹	土器、石器
23	金鳥山	弥生中期	山腹	住居址、土器、石器
24	保久良神社	弥生中期 奈良、平安	山腹	土器、石器、銅戈、瓦
25	生駒	弥生	山腹	銅鐸
26	森北町	弥生中、後期	山麓	土器、石器
27	三条岡山	弥生後期 鎌倉、室町		土器、陶器
28	山芦屋	縄文早期		押型文土器、石器
29	会下山	弥生中、後期	尾根	漢式三角鏃、住居址、墓址 土器、石器
30	朝日ケ丘	旧石器 縄文前期	山腹	ブレイド、石鏃、石匙
31	深江	弥生	扇状地	土器、石器
32	渦ケ森	弥生	山腹	銅鐸
33	坂下山	弥生中期	山腹	土器、石器
34	森奥	弥生後期	尾根	土器
35	森	弥生	山腹	銅鐸
36	御影中町	古墳 奈良、平安	扇状地	滑石製模造品、緑釉、土器、鏡

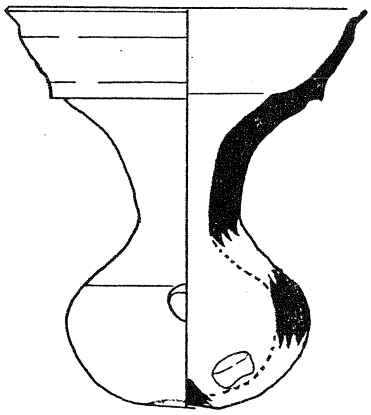


東求女塚古墳平面図

東求女塚古墳断面図

東石ケ谷１号墳現地説明会資料

神戸市垂水区舞子陵所在



昭和５８年１月１５日

神戸市教育委員会

東石ヶ谷1号墳発掘調査については

神戸市衛生局の協力を得ました．

表紙説明　　東石ヶ谷1号墳玄室から

出土した　須恵器 甕（はそう）

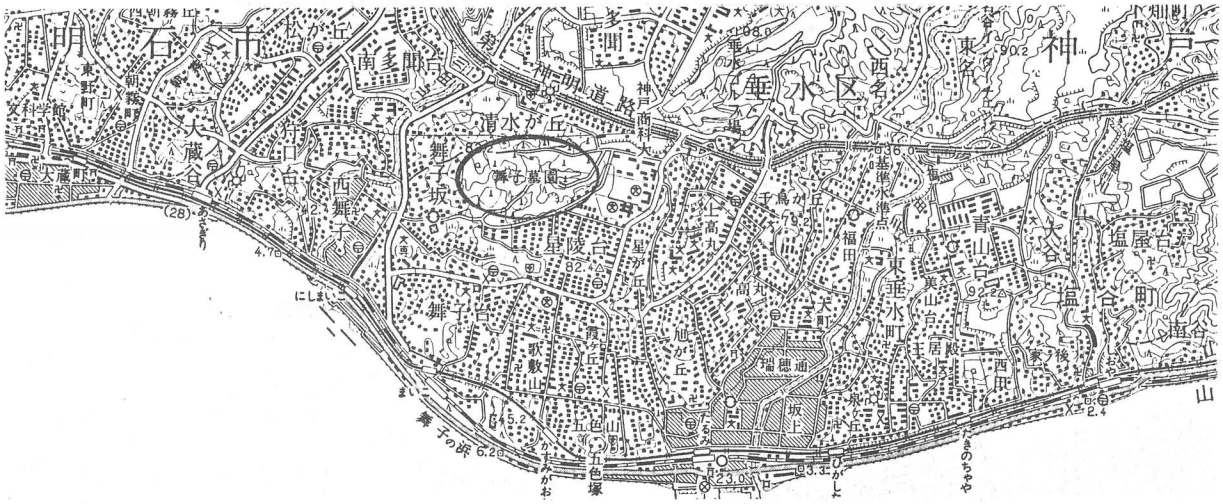
1／2

はじめに

東石ケ谷１号墳は，舞子古墳群のほぼ中央に所在する東石ケ谷支群中の古墳です．

舞子古墳群は，舞子丘陵上に存在する後期古墳の総称です．

かっては１００基以上もの古墳があったといわれていますが，今では約２０基を残すのみとなりました．

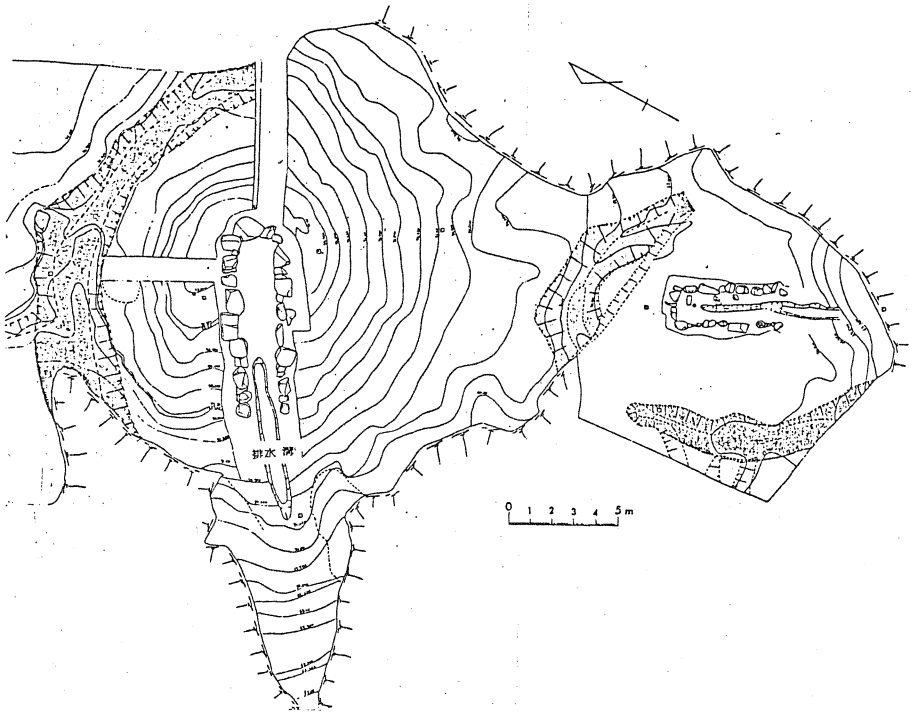


これまでの調査

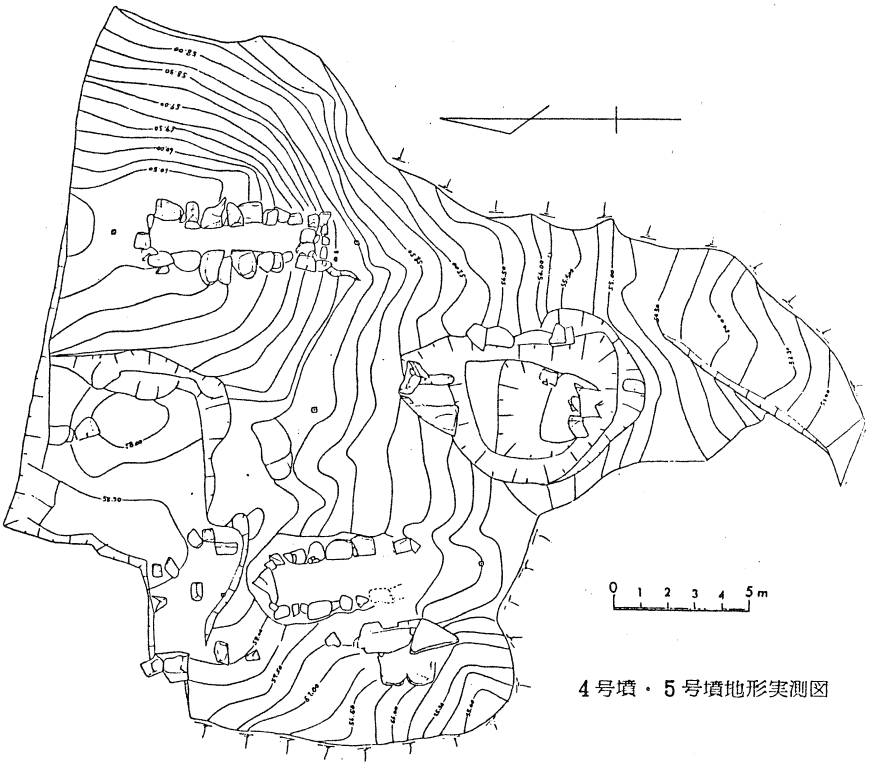
東石ケ谷支群の西側の西石ケ谷支群を５５，５６年度に１～６号墳計６基を調査しました．

これより以前には東石ケ谷支群の南東の尼ケ谷支群３基を３９年度に，また南西の東市ケ坂支群２基を５２年度に調査しました．

ほかに舞子丘陵では弥生式土器片，石器等も採集されています．



舞子坂１号墳・２号墳墳丘実測図



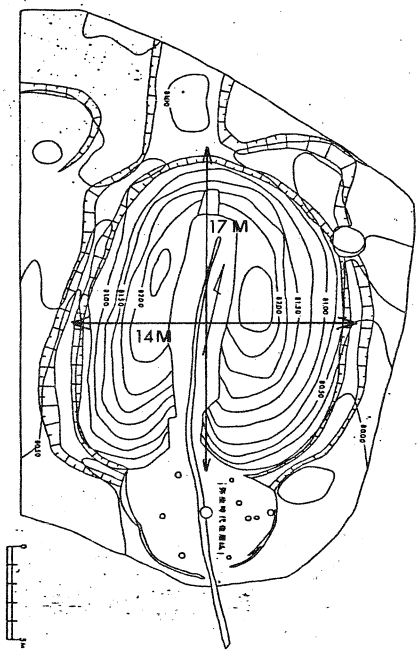
４号墳・５号墳地形実測図

古墳の立地

東石ケ谷１号墳は，標高８０ｍ前後の平たい尾根上に存在します．

北から南へ伸びる尾根がやや西に屈曲する所に所在し，またこの尾根の先端部には東石ケ谷２号墳があります．

古墳の形と大きさ



古墳は南北約１７ｍ，東西約１４ｍのやや南北に長い円形をしています．

現在残っている墳丘の高さは，約1.6ｍです．

古墳の周囲には堀が掘られており，特に西側の堀は深く掘りこまれて明瞭です．

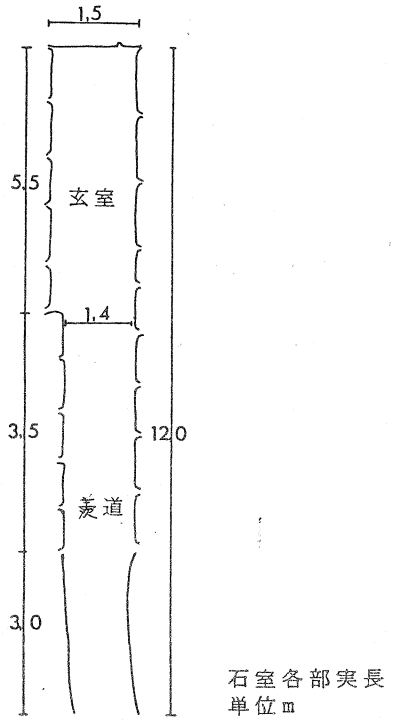
西側の堀が石室入口に向かって曲がる部分に須恵器甕（かめ）の破片が集積した状態で出土しました．葬送に伴う儀式を行ったのではないかと考えられます．

古墳は，尾根を石室の外形に掘り石材を積み，それと併行して盛土を行って築造されたようです．

また墳丘盛土中には比較的多くの弥生式土器片やサヌカイト片が検出されました．

石室の形態と大きさ

内部主体は，横穴式石室で，玄室右側に袖をもつ，右片袖式の石室です．



石室内部の状態

袖部から入口にかけての３個の石は，縦積にしており他の石材は一部をのぞいて横積にしています．

石室は側壁が天井に向かってじょじょにせり出す，持ち送りがみられます．

現在残っている側壁の高さは，床面から約２ｍです．

さらに石室内から石室外へと排水溝が掘られていました．

石室の開口方向は，ほぼ南向です．（Ｎ４°３０′Ｅ）

石室内には多くの石材と土砂が流れ込んでいました．これらの石材のなかには，後世に石を運び出すために割ろうとしたクサビ痕が見られるものもありました．

石室内の石と土砂を取り除くと石室の床面上ほぼ全面に炭が敷かれていました．この炭の厚さは，２～７cmありました．

炭のなかからは，少量の須恵器片，鉄片及び金環１点が検出されました．

床面には多くの遺物と石が検出されました．

玄室床面

最奥部の東側には，須恵器短脚高杯，提瓶，土師器小型甕各１点づつ出土し，これらは原位置をとどめているものと考えられます．

ほかの土器類は鉄器類はほとんどのものが原位置をとどめていませんでした．

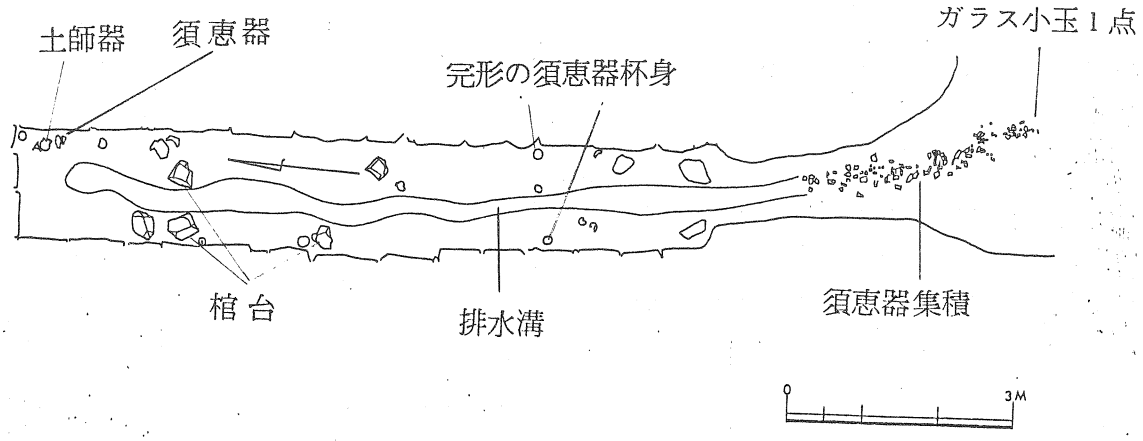
また遺体を入れた棺をのせた台と思われる石も検出されています．

羨道部床面

完形の須恵器杯身は伏せられた状態で，ほかは破片が散乱した状態で出土し，入口床面で金環１点が検出されました．

排水溝

排水溝内からは須恵器が集積した状態で検出され，その多くは甕片であり，ほかにガラス小玉１点が出土しました．



出土遺物一覧表

須恵器		鉄製品	
杯身（つきみ）	5	鏃（やじり）	1 1
杯蓋（つきぶた）	4	刀子（とうす）	4
提瓶	4	鉄斧？	1
硯（はそう）	3	不明	2 3
短頸壷（たんけいこ）	1		
台付長頸壷	1	**装身具**	
長脚高杯	5	金環	2
短脚〃	1	ガラス小玉	1
平瓶（ひらか）	2		
甕	2		
土師器			
小型甕	1		
鉢	1		
石製品			
石鏃（ぞく）	2		

石室の炭敷とその検討

古墳が築造され，埋葬が行われます．そして，そのあと内部の副葬品をうち砕き石室入口の排水溝のあたりにかき出したと思われます．

（これは玄室内に残された須恵器甕片と排水溝内須恵器甕片がひとつの個体として復元できることからも考えられます．）

副葬品をかき出したのち，石室全体に炭を敷いたと考えられます．

しかし炭敷の上面からの遺物の出土がなくいつ頃，誰が，なんのためにこの炭を敷いたのかは不明です．遺物の整理等から今後検討していかねばならない課題です．

小　結

遺物，石室の形態から，東石ケ谷1号墳は，6世紀の末頃の古墳と考えられます．

また古墳北西部箱式石棺状の埋葬施設が検出されています．出土遺物等がなく時期，性格は不明です．

弥生時代住居址

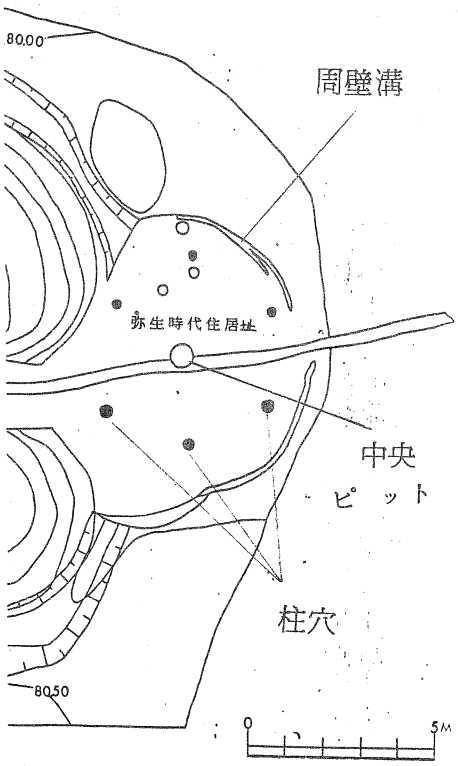
検出の経過

1号墳の排水溝及び墳丘南側を検出中に直径約8 mの大きな落ち込みがあることがわかってきました．

この落ち込みからは，須恵器と弥生式土

器が伴出しました．そのため弥生時代住居址の可能性も考えて調査した結果，地山に掘り込まれた弥生時代住居址が検出されました．

形状と大きさ



直径 7.5 m の竪穴式円形住居址で，周壁溝があります．

柱穴が 6 ケ所あり，6 本の柱で屋根を支えた比較的大きな建物です．

中央には，直径 0.6 m，深さ 0.4 m のピットが検出されました．

住居址の北辺部は古墳の下になっています．

このことから，弥生時代住居址が先につくられ，そののち古墳が築造されたことがわかります．

出土遺物と時代

壷や甕，高杯の破片，器台等多くの弥生式土器や叩き石と思われる石器も出土しています．

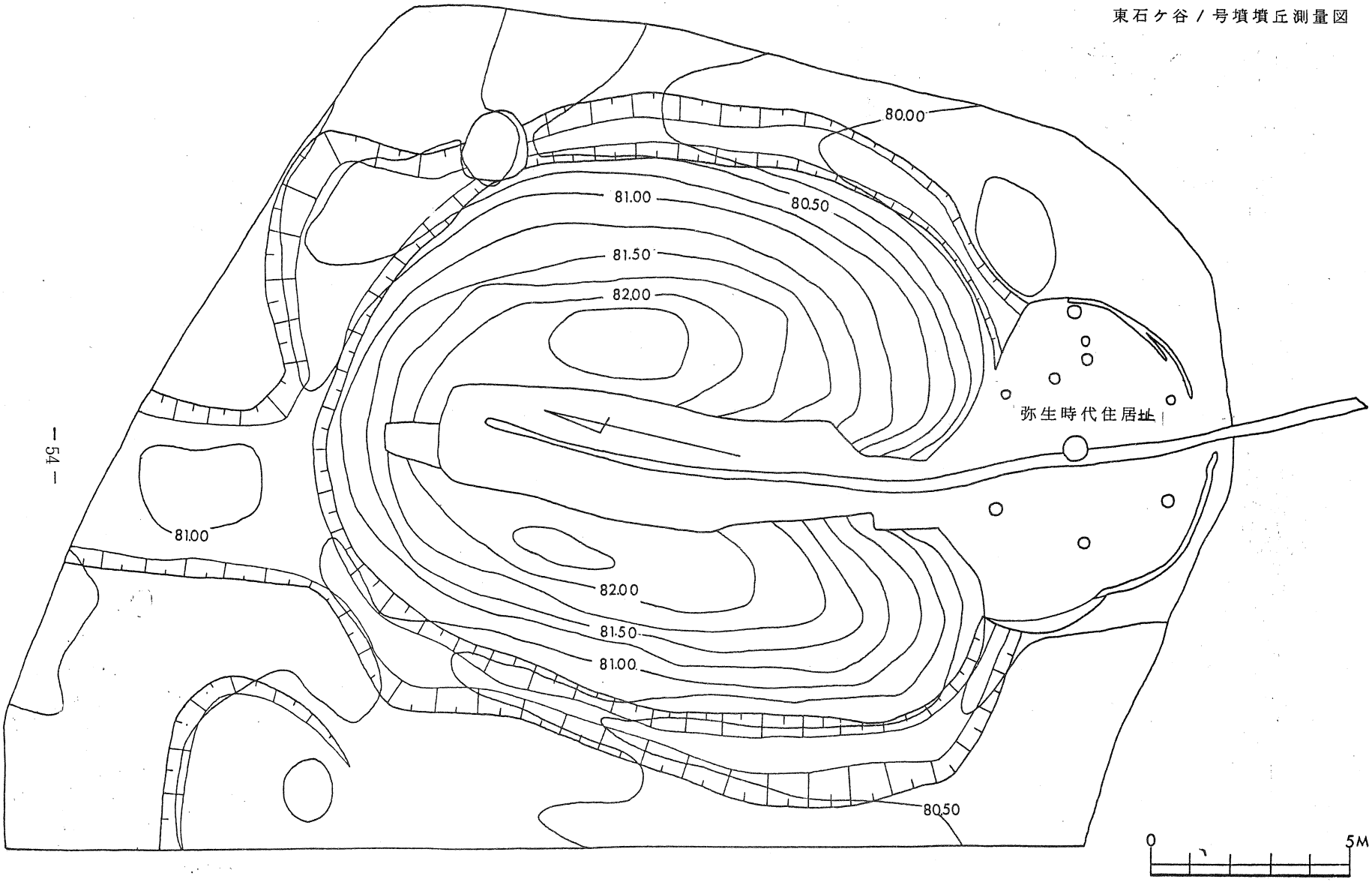
この遺物から弥生時代後期（3 世紀頃）と考えられます．

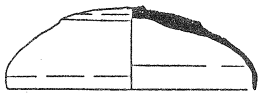
大歳山遺跡の弥生時代住居址と今回検出された住居址はほぼ同じ年代です．

舞子古墳群関連略年表

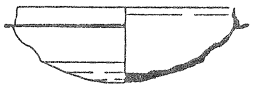
年代（西暦）		付近の遺跡
200 弥生時代	今回調査の住居址	大歳山遺跡（復元住居）
300	このころ古墳が作り始められる．	ひさご塚 天王山4号墳
400	前方後円墳の時代	五色塚古墳 狩口台きつね塚
500	群集墳の時代 仏教伝わる 今回調査の古墳	舞子古墳群
600 古墳時代		
700	大化改新 遣唐使の初め 火葬の始まり 平城京造営	西神89地点

東石ケ谷1号墳墳丘測量図

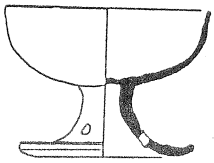




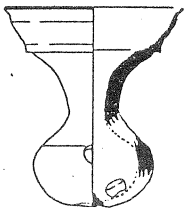
杯身



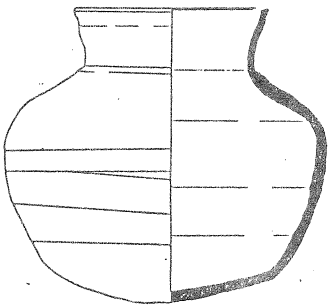
杯蓋



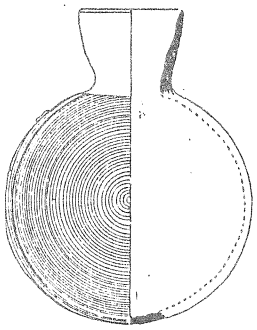
短脚高杯



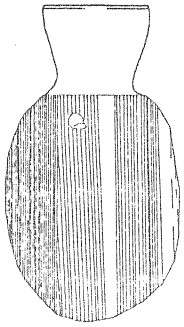
瓶



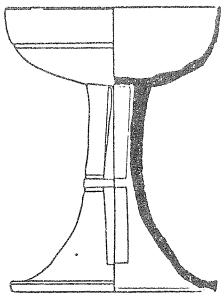
短頸壺



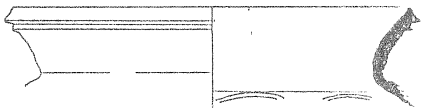
提



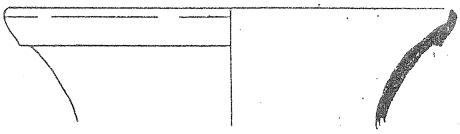
瓶



長脚高杯



甕



甕

東石ケ谷1号墳
出土遺物　1／4

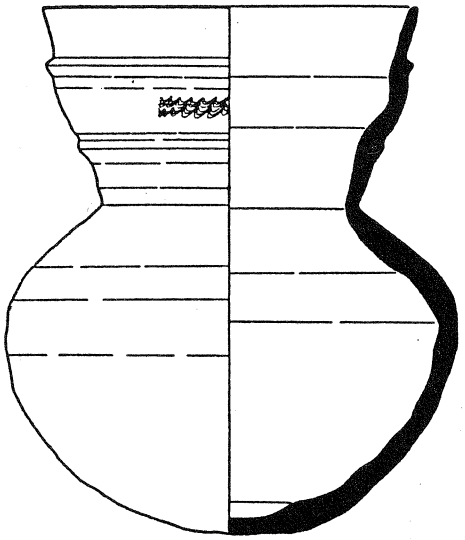
ーメモー

舞子古墳群古墳分布図

○は、すでに消滅した古墳
●は、現存する古墳

居住・小山遺跡現地説明会資料

神戸市西区玉津町居住・小山所在



神戸市教育委員会

昭和58年1月23日

表紙説明　ＳＴ０２出土須恵器

神戸市居住小山住宅街区整備組合、
都市整備公社の協力を得て調査を
行なっています。

1. はじめに

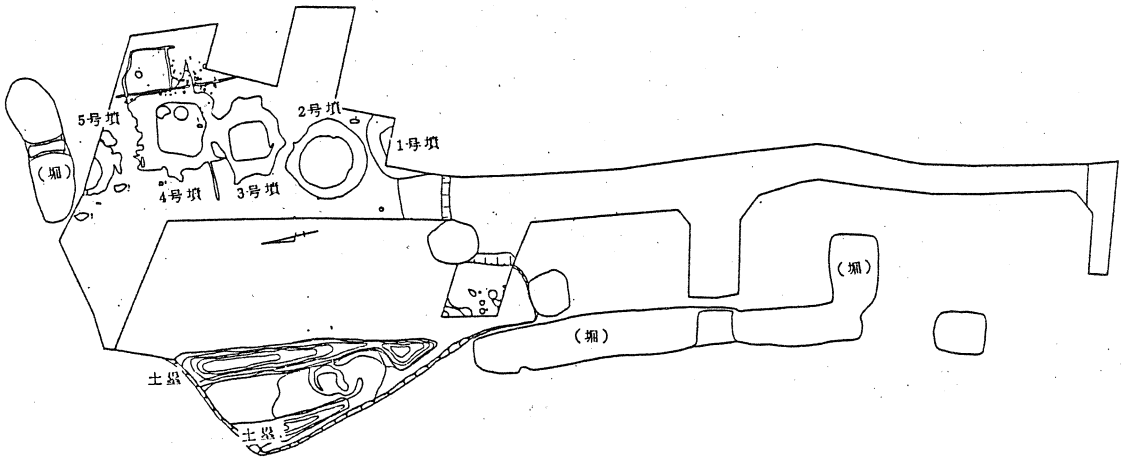
居住（いすみ）・小山遺跡は，昭和５６年度に埋蔵文化財の有無を確認する試掘調査によって初めて発見された遺跡です．

居住・小山遺跡というのは，居住地区と小山地区にまたがって存在しているため付けられた名称です．

調査地区位置図

居住・小山地区は，区画整理事業を行っており，試掘調査の結果に基づいて，事前に2カ所の調査を行っています．今回の説明会では，57年11月上旬から調査を実施したB地区（約2,400㎡）について行うものです．なお，A地区（約3,000㎡）については，現在調査中です．

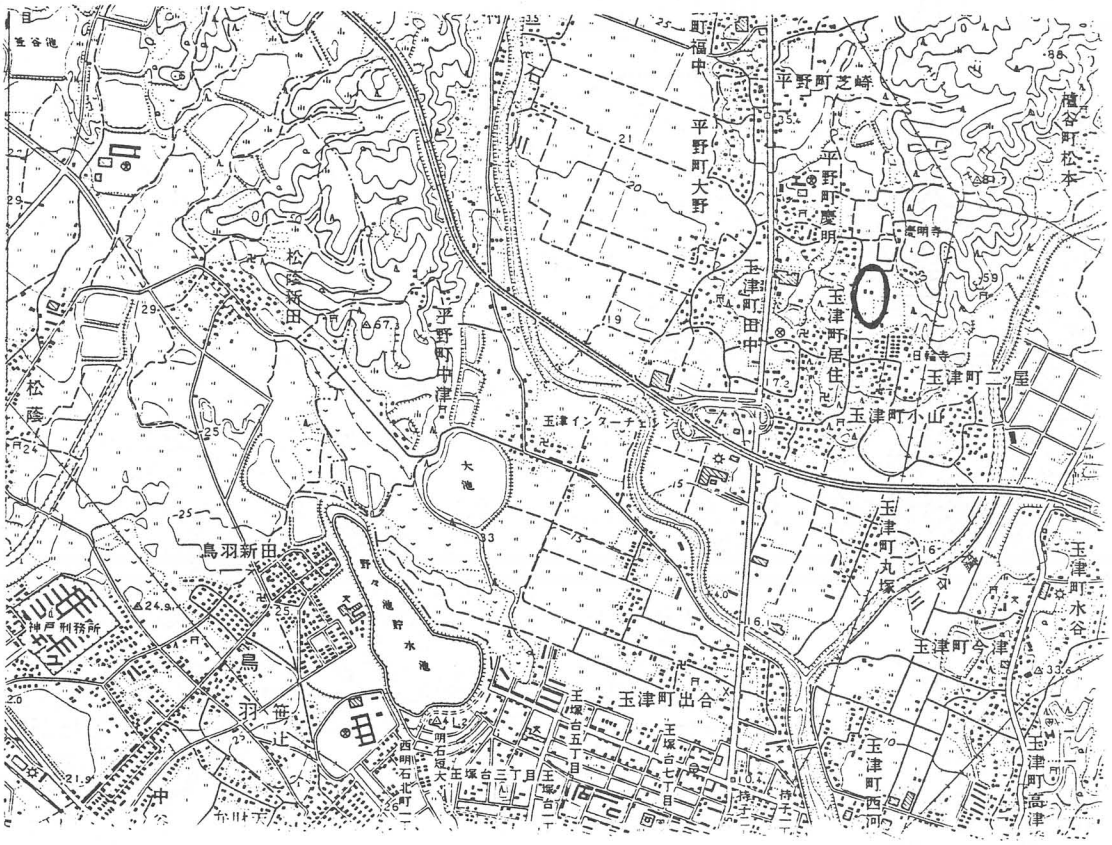
さて，今回B地区で発見されたものは，5基の古墳と土墨状遺構です．5基の古墳は，北西の丘陵にある慶明寺古墳群に属するものと考えられます．このことから今回の古墳は，慶明寺古墳群小山支群と一応呼ぶことにします．この5基の古墳は，後で述べるように中世期に削平を受け，以後耕作土の下にあり，調査以前には，まったくその存在が知られなかった古墳です．



2. 周辺の地形

当遺跡は，明石平野を形成する明石川とその支流枦谷川（ほだたに）にはさまれた丘陵南端部の西側台地に立地しています．この台地は南北約６５０ｍ，東西約３００ｍの広さです．このような中位段丘は，明石川東岸の平野町向井周辺，同じく西岸の玉津町出合にも認められます．これらはいずれも標高３０ｍ前後です．玉津町居住，田中付近の丘陵沿いの平野部では，扇状地の地形が読みとれます．

周辺地形図



1、新方遺跡
2、吉田南遺跡
3、池上ロノ池遺跡
4、今津鎌田遺跡
5、居住遺跡
6、田中遺跡
7、池上北遺跡
8、脊谷遺跡
9、北別府遺跡
10、南別府遺跡
11、如意寺東山遺跡
12、大歳山遺跡
13、出合遺跡
14、西神62地点
15、王塚古墳
16、天王山古墳群
17、瓢塚古墳
18、中村古墳群
19、印路古墳群
20、舞子　古墳群
21、投上銅鐸出土地

3. 周辺の遺跡

旧石器時代

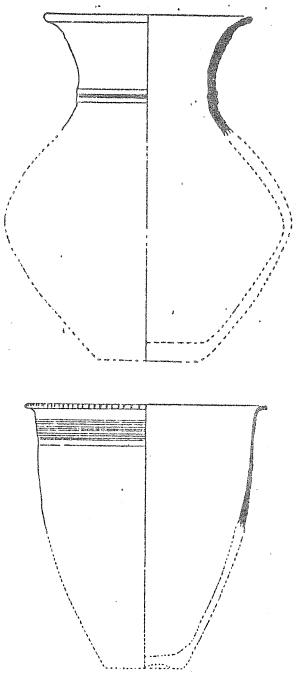
約2万年前の後期旧石器時代の石器が，明石川流域の丘陵で点々と発見されていますが，まだ生活の痕跡を残す遺跡は見つかっていません．

縄文時代

次に，縄文時代にはいると，周辺でも大きな遺跡が発見されています．西区の元住吉山遺跡では後期後半の土器と炉址が発見されていますし，垂水区では大歳山遺跡（前期末）舞子浜遺跡（中期）などが知られています．

弥生時代

弥生時代になると，明石平野の各地に遺跡が出現しています．まず，近畿地方で最も古い弥生時代の遺跡として有名な，玉津町吉田遺跡があげられます．他に前期の遺跡としては，新方（しんぼう），片山，今津，居住，常本，西戸田遺跡があり，明石平野の全域でほぼ一斉に稲作を始めとする農耕が開始されたと考えられます．



西戸田遺跡出土
弥生前期の土器

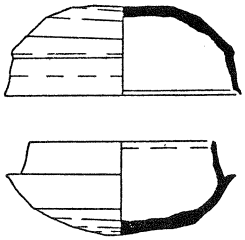
中期にはさらに増加し，平野部だけではなく，丘陵上や斜面にも集落が営まれています．

平野部の代表的な遺跡としては，玉津町新方遺跡，丘陵に立地するものとして西神50地点の伊川中流域・頭高山（すこうさん）遺跡があげられます．

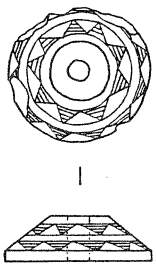
後期の代表的な遺跡として，吉田南遺跡が知られています．

古墳時代

古墳時代に入ると，伊川谷町潤和に天王山4号墳（40中頃　方形墳）が出現し，続いて瓢塚（ひょうづか）の前方後円墳が構築されています．明石川水系では王塚古墳（前方後円墳）が築か



居住遺跡
出土須恵器



居住遺跡 石製紡錘車

れています．

５Ｃ末～６Ｃ初頭頃からは，直径１０～１５ｍの小型の古墳が群をなす「群集墳の時代」に入ります．明石川流域では平野町印路や中村，西神ニュータウン内でみられます．

出合遺跡では，当遺跡と同じように削平された古墳群が発掘調査によって明らかになっています．帆貝式前方後円墳１（全長約３０ｍ），円墳２（直径１１ｍ・１２ｍ），方形１基（１辺約１０ｍ）が確認されており，時期も５Ｃ末～６Ｃ前半頃と，居住・小山遺跡と同時期のものです．

4. 調査の概要

昭和５７年１１月１１日より約2,５００㎡対象に発掘調査を行っていました．

その結果，中世のものとして室町時代後半頃の土塁，堀，井戸と１３Ｃ後半頃の柱穴，溝，土坑，１１Ｃ頃の土坑墓などを確認しました．古墳時代の遺構としては，円墳２基，方墳３基の周溝と柱穴，小児用と推定されている甕棺が検出されました．

a）鎌倉・室町時代

土塁と堀に囲まれた空間は南北約１００ｍ東西約５０ｍです．土塁と堀が二重にめぐるのではなく，西辺をみると，地上の高さが低いところは堀をうがち，高いところは土塁を築いているようです．

堀は幅約６ｍ，深さは約1.５ｍです．南西隅でＬ字形にまがっています．

土塁は長さ約４０ｍで２本あります．高さは最も残存状態のよいところで1.６ｍあります．幅は東側のもので約６ｍ，西側で約５ｍを測ります．

井戸を１基検出しました．直径約２ｍ深さ３ｍで江戸時代にはすでに埋め戻されています．

トレンチの北東部に方形を画する溝と柱穴群が検出されました．柱穴は明確な建物址にはなりませんでした．土エ穴０１には，土師質の羽釜（はがま），椀，須恵質の捏鉢（こねばち），甕，白磁などが出土しています．

b）古墳時代

古墳は１３ｃに削平されており，周溝のみを検出しました．埋葬施設の数や規模は不明です．埋葬施設の構造は，掘り方が残っていないことなどから横穴式石室ではなく，木棺直葬（じきそう）であったと推定されます．

周溝は削平をうけた１３ｃに最終的に埋められています．この時に多量の小さな円礫が堆積しています．この円礫はおそらく木棺の裏込めに使われていたと推定されます．

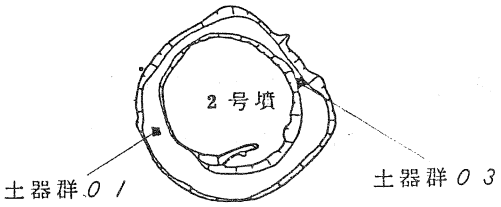
１号墳

１辺約６ｍの方形墳と推定されます．北辺と東辺の１部を検出しました．周溝の幅は約２ｍで方形を呈し，深さは約0.２ｍを測ります．北辺で出土した土器群は溝底から浮いており原位置を保っていません．円礫群は北辺東半にありました．

２号墳

直径約9.５ｍの円形墳です．周溝の幅は，

1.0～2.0 mでほぼ円形を呈し，深さは0.15～0.25 mを測ります．土器群は2カ所にあります．北東部では溝底に接して須恵器杯の蓋と身がセットで出土しました．南西部では炭と焼土を伴い，須恵器甕が破片で出土しています．

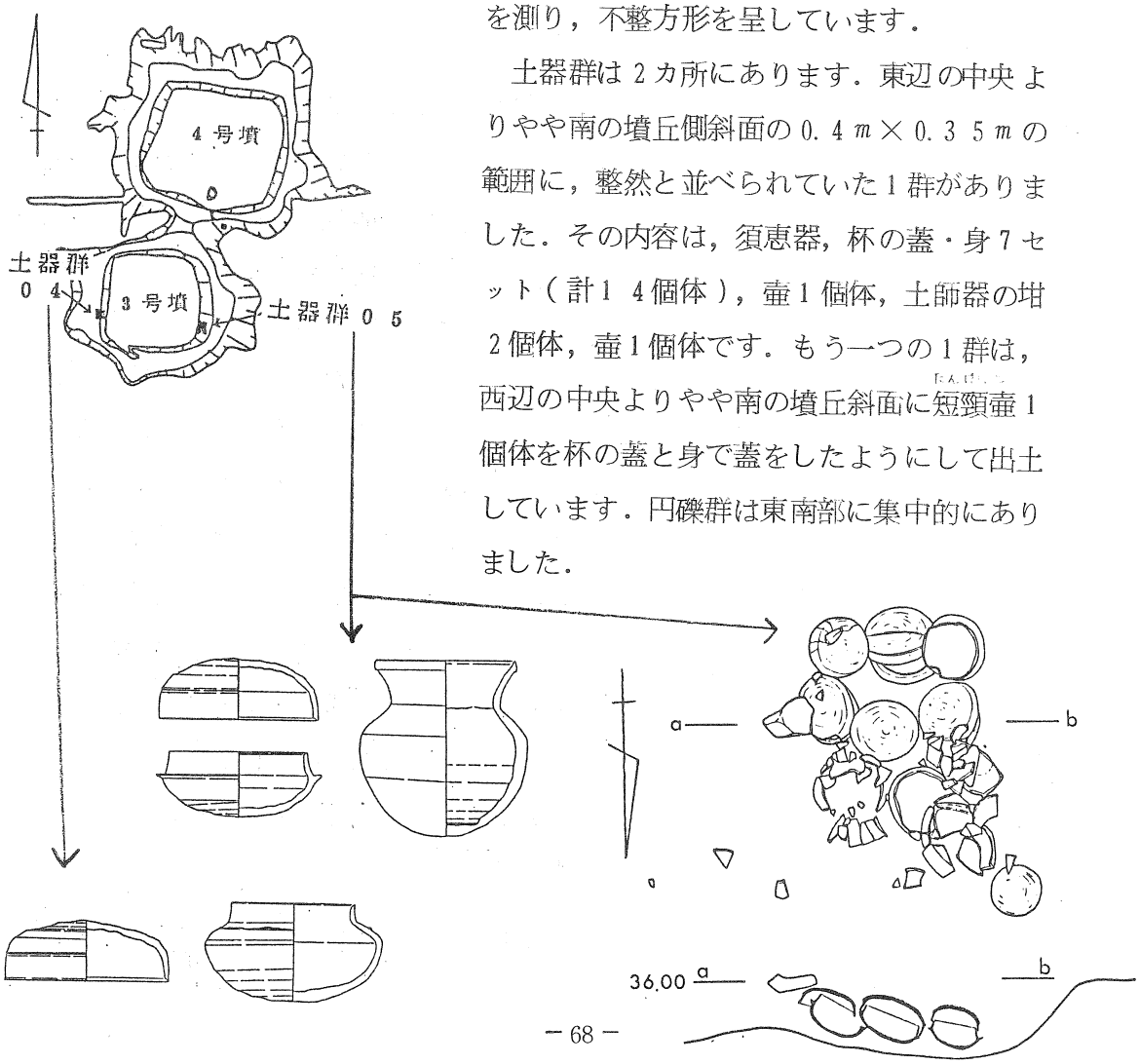


南の墳丘斜面の東西約1.0 m南北0.5 mの範囲で火をたいた痕跡があります．

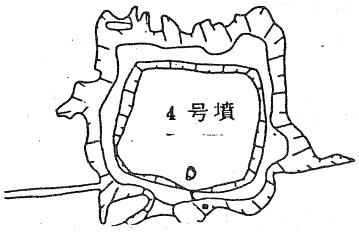
3号墳

南北7.0 m東西7.5 mの長方形墳です．周溝は幅1.0～2.0 m，深さ0.2 m～0.25 mを測り，不整方形を呈しています．

土器群は2カ所にあります．東辺の中央よりやや南の墳丘側斜面の0.4 m×0.35 mの範囲に，整然と並べられていた1群がありました．その内容は，須恵器，杯の蓋・身7セット（計14個体），壷1個体，土師器の坩2個体，壷1個体です．もう一つの1群は，西辺の中央よりやや南の墳丘斜面に短頸壷1個体を杯の蓋と身で蓋をしたようにして出土しています．円礫群は東南部に集中的にありました．



4号墳



南北約10m東西約8mの長方形墳です．周溝は幅2.0m～3.0m，深さ0.2m～0.24mを測り，不整方形を呈しています．この周溝の南辺は3号墳の北辺とつながっています．

土器群は南辺の中央より東側に杯が2セット出土しています．

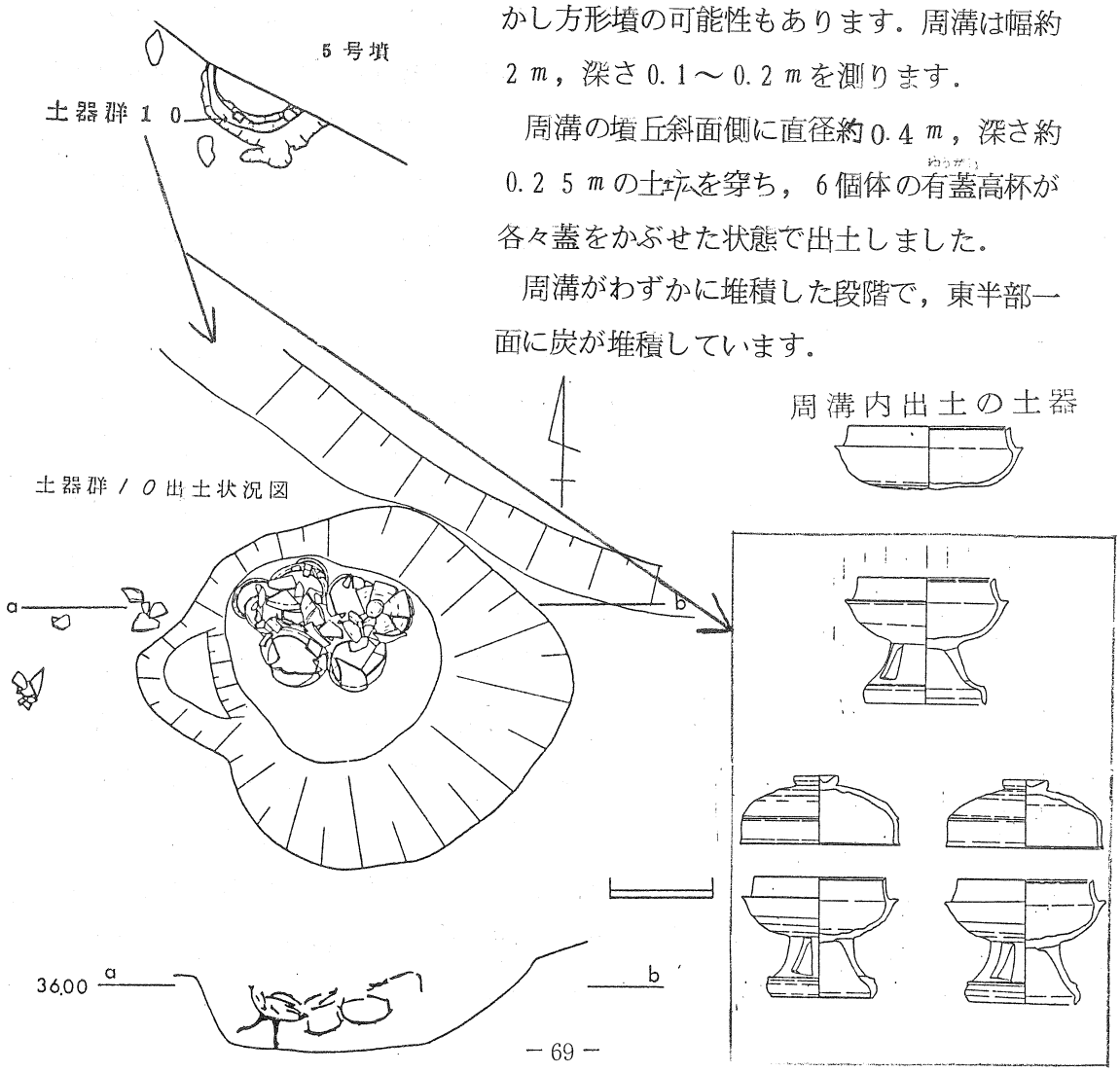
南辺のほぼ中央の墳丘斜面に直径約0.4mの炭と焼土を含む深さ約0.15mを測る壁の焼けた土坑が1基検出されました．

5号墳

直径約6.5mの円形墳と推定されます．しかし方形墳の可能性もあります．周溝は幅約2m，深さ0.1～0.2mを測ります．

周溝の墳丘斜面側に直径約0.4m，深さ約0.25mの土坑を穿ち，6個体の有蓋高杯が各々蓋をかぶせた状態で出土しました．

周溝がわずかに堆積した段階で，東半部一面に炭が堆積しています．



まとめ
古墳時代

以上発見された5基の古墳の時期は，周溝内の遺物から考えて，5世紀末～6世紀初頭に築かれたと考えられます．埋葬施設は裏込めに円礫を用いた木棺直葬と考えられます．

慶明寺の山頂の平担部には，今回の古墳とほぼ同規模の古墳が現存しており，復元の際に参考になります．

5号墳

明石川流域で横穴式石室が築かれるのは6世紀前半頃以降と考えられています．慶明寺の丘陵や慶明寺地区の谷を望む斜面に横穴式石室が築かれており，これらも6世紀中頃以降と推測されます．これら横穴式石室が採用される以前は当遺跡のように木棺直葬が主流を占めていたと考えられます．

このように台地の平担部に築かれた群集墳は出合遺跡の古墳や，三木市高木古墳群などに類例が求められます．これらの例から考えて慶明寺を中心とするこの台地の上にも，まだ数多くの古墳が存在するのではないかと推測されます．

このように木棺直葬墳と横穴式石室を主体とする古墳が混在する群集墳は，県下では極めて貴重な例と言えます．

近年当遺跡のように，後世に削平されて古墳としての標識を失なってしまい，その痕跡（周溝など）が確認される例が増加しています．丘陵上の例としては，最近調査された龍野市養久乙城山（やく おとしろやま）遺跡，玉津町出合遺跡など，平野部の例としては大阪府内の各地の例などがあります．

鎌倉時代以降
土塁・堀

南北約１００ｍ，東西約５０ｍの範囲を土塁と堀で画し，その内には今回の調査では井戸が検出されただけでした．

土塁と堀を１直線上につなぐ例は余りありませんが，おそらく当遺跡の場合は微地形や用水を考慮した結果ではないかと推定されます．

問題は何のためにこのような防御施設を築いたのかということですが，文献１と２から推測すると，天文年間（１６世紀前半）に築かれた日輪寺の防御施設である可能性もあります．

いずれにせよ１２世紀頃からこの台地の開発が始まり，１６世紀代に急速に進んだと推測されます．このような地域の歴史は，慶明寺にある五輪塔やしばり地蔵によって，現在に伝えられています．

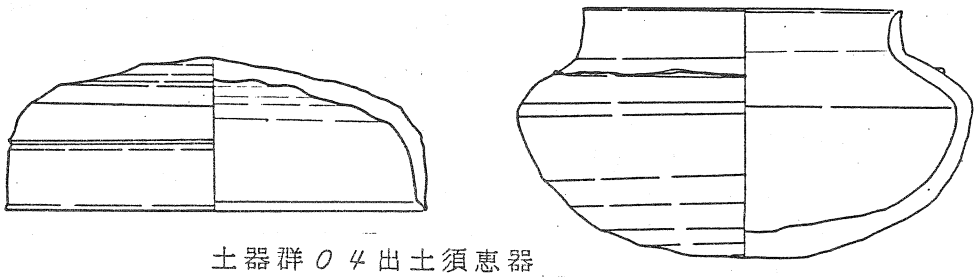
八月廿九日に有馬殿爲二合力一。長慶より三好日向守大將にて攝津國衆播州へ打立。九月一日に合戰あり。三好方打勝て三木の別所方の城城七ッ落也。然ば則九月十二日歸陣也。
同十月十二日に三好長慶淡路へ渡海有。洲本にて御兄弟衆。阿波の三好豐前守。十川民部大輔一存。安宅の攝津守冬康參會有レ之。世上の儀內談候由風聞す。同廿八日に長慶御上洛也。三人も其國々へ被二打歸一の由候也。

群書類從より

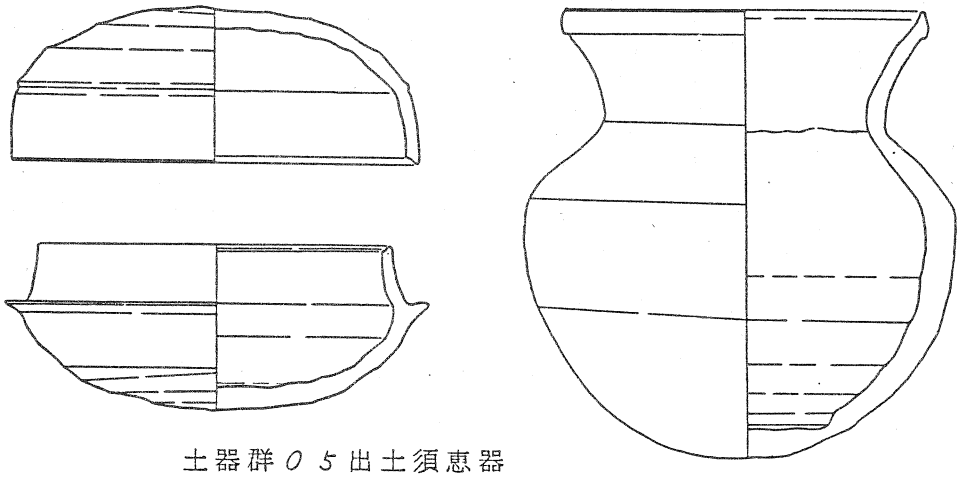
【普光山日輪寺】　天臺宗　當津庄　在小山村　比叡山末寺
本尊　千手觀音　長六尺　行基作　元三大師　本堂額　雪村筆
盤桂禪師ノ弟子也　鎭守社　夜叉神疱瘡除難神也　以レ紙製レ
衣献レ之　御朱印二十八石

寺記云　人王四十五代聖武皇帝御宇行基之開基也　享保四年
マテ凡九百八十年　行基受レ詔諸國田畠開橋渡池堀當山麓池其
一　今井池號行基當所西岡居住時夢　昔阿育大王閻浮提中
八万四千塔建立此所其一也伽藍建立　靈夢有明旦蓮花岡上
生行基思　誠蓮華即觀音也手　親長六尺千手大悲像刻草堂
安置其後有レ　詔講堂食堂五重大塔建立有天下泰平祈願道場
成其後天平寶字七年當國摂保郡布施郷五足犢子生諸人駭上
聞天文博士大兵亂占奏聞果　翌年異國　兵船二万餘艘西海灘
頭到家島高島兩岸船陣　是故爲二討伐一大將軍藤原貞國　副將
軍　明石大領緤長　等宣旨有　魚吹津　出船砌於二當寺一秘法修
忽暴風吹兵船本國退散其後元德元年大雨　山崩岸潰諸堂破
壞於レ是再奏聞篤移二諸堂一再興有　又天文年中阿州三好亂入
兵火權堂社一時燒亡後淡州宥覺上人叡山忍秀阿闍梨心合一
堂建立本尊安置今堂是也　慈覺大師登山時一法事始　故古跡
於二岡草堂一毎年十月十夜中有二法華經讀誦一至レ今不レ絶行云
々

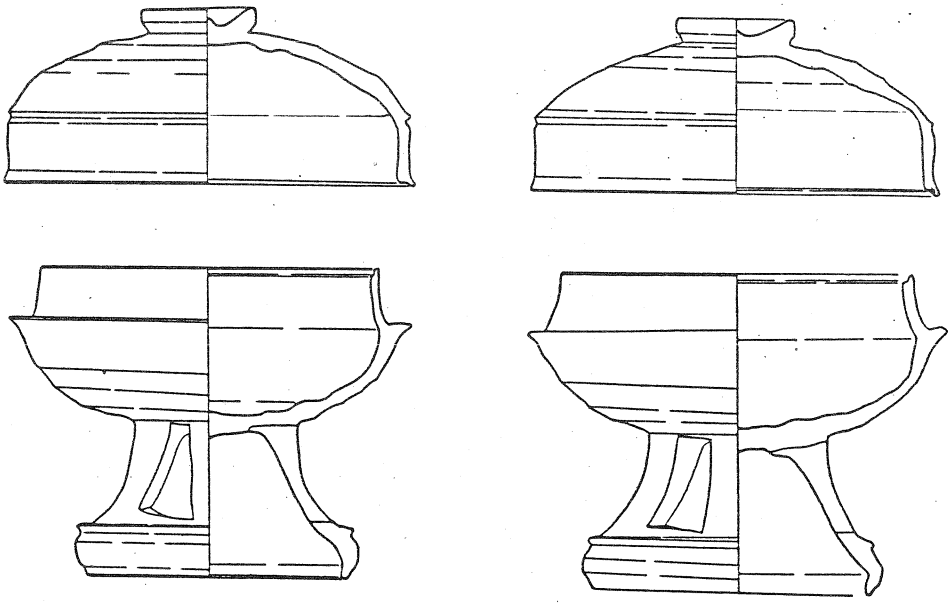
播磨鑑（細川両家記）より



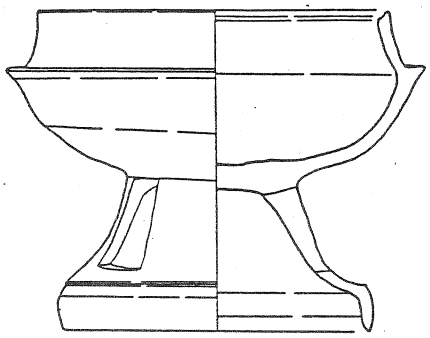
土器群０４出土須恵器



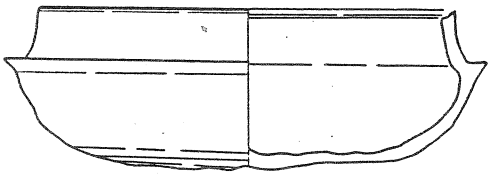
土器群０５出土須恵器



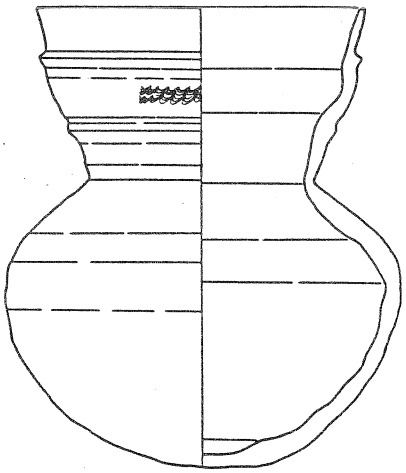
土器群１０出土須恵器

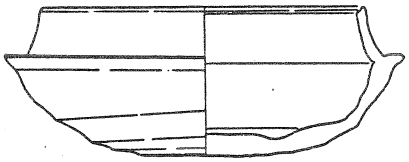


土器群１０出土須恵器

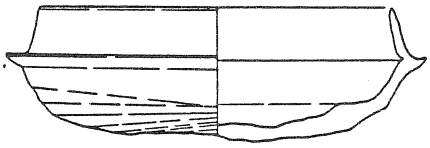


５号墳周溝内出土須恵器

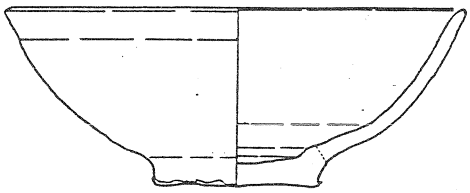




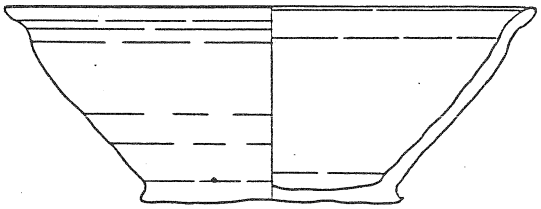
ＳＴ０２出土須恵器



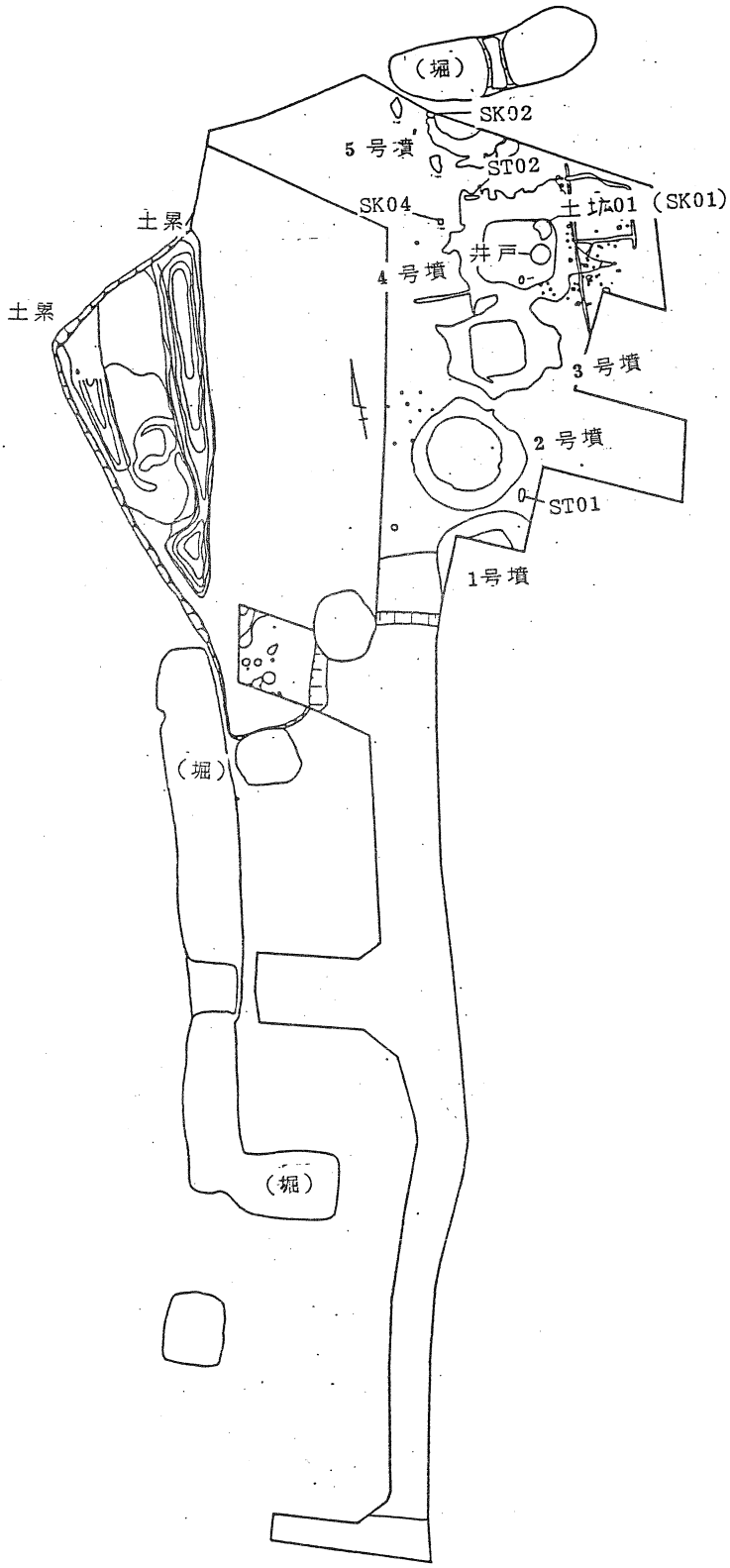
ＳＫ０４出土須恵器



ＳＫ０２出土須恵器

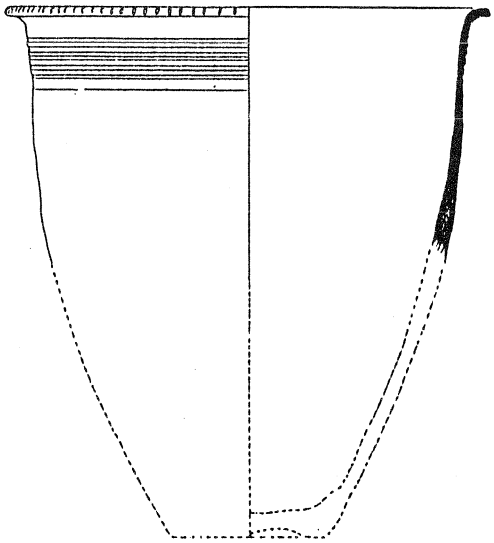


ＳＴ０１出土須恵器


（堀）
SK02
5号墳
ST02
SK04
土坑01（SK01）
土累
井戸
4号墳
土累
3号墳
2号墳
ST01
1号墳
（堀）
（堀）

西戸田遺跡スライド会

昭和54年度～昭和57年度の調査成果



昭和57年11月14日

神戸市教育委員会

表　紙　説　明

G　トレンチSK０３出土
弥生時代前期の甕

1　はじめに

神戸市教育委員会では，昭和５４年度より，５７年にかけて圃場整備事業に伴い，発掘調査を行ってまいりました．

過去４年間の発掘調査の成果をみなさんにお知らせするため，スライド会を行うこととなりました．

なお，調査については，地元の方々，土地改良区，農政局，緑農公社の御理解と御協力を得ました．

2　どうして遺跡があることがわかるのでしょうか．

市教委では，文化財の保護を目的として，分布調査，工事の立会，資料，市民の皆さんからのお知らせなどをもとに文化財分布地図を作成しようとしています．

西戸田地区では，分布調査の結果，遺跡の存在する可能性がきわめて高いことがわかりました．

分布調査　：　山や畑を実際に歩いて，土器のかけらが落ちている地点や，遺跡が存在するような地形を調べて地図上に落としていくことを分布調査と呼んでいます．

3　何故，発掘調査をするのでしょうか．

発掘調査で得られた成果は，歴史を明らかにする資料となります．

また，工事等によって地下に埋もれている貴重な歴史の資料を明らかにしないまま，こわさないようにするため行います．

西戸田地区では，分布調査に基づいて，試掘調査を行った結果，遺跡があることがわかったので，発掘調査を行うことにしました．これは，国の文化財保護法という法律によって，遺跡の調査が義務ずけられているからです．

つまり，文化財が知らないままにこわされることがないようにすることが，国民の義務であるということなのです．調査の結果，重要なものについては，子孫のために残していくことも現在生活している我々の務めでもあるわけです．

4　発掘調査はどのように行うのでしょうか．

分布調査の結果に基づいて，遺跡の存在する可能性の高い所に試し掘り（試掘溝）を行います．そして，遺物が多く含まれて

いる層（遺物包含層）や，過去の人々の生活のあと（遺溝）が発見されると，その地区を大きく掘り広げて発掘調査を行います．

5　土器は時代のものさし

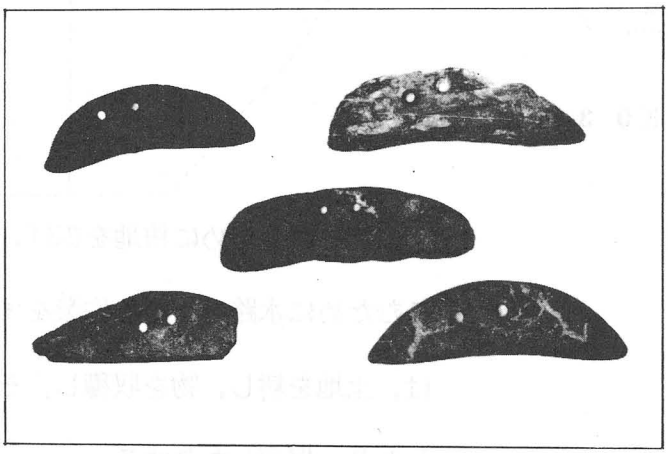
普段の生活で使われた土器類は，こわれると捨てられ，新しいものと取りかえられます．そして土器は腐ったりせずに土の中に埋もれて残ります．また土器は，必要に応じて，形や大きさをかえてつくられ，様々な紋様が施されたりします．

6　西戸田地区での発掘調査で，どんなことがわかったのでしょうか．

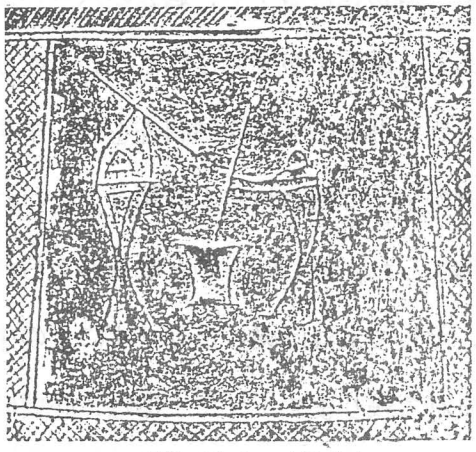
５４年度から５７年度にかけての調査で西戸田地区では，弥生時代前期〜室町時代（奈良，平安時代を除く）の人々のさまざまな生活の様子がわかりました．

7　稲作のはじまり（弥生時代）

今から約2,２００年程前に日本に稲作が伝わりました．それまでの日本の社会は，



▲石の収穫具　石庖丁

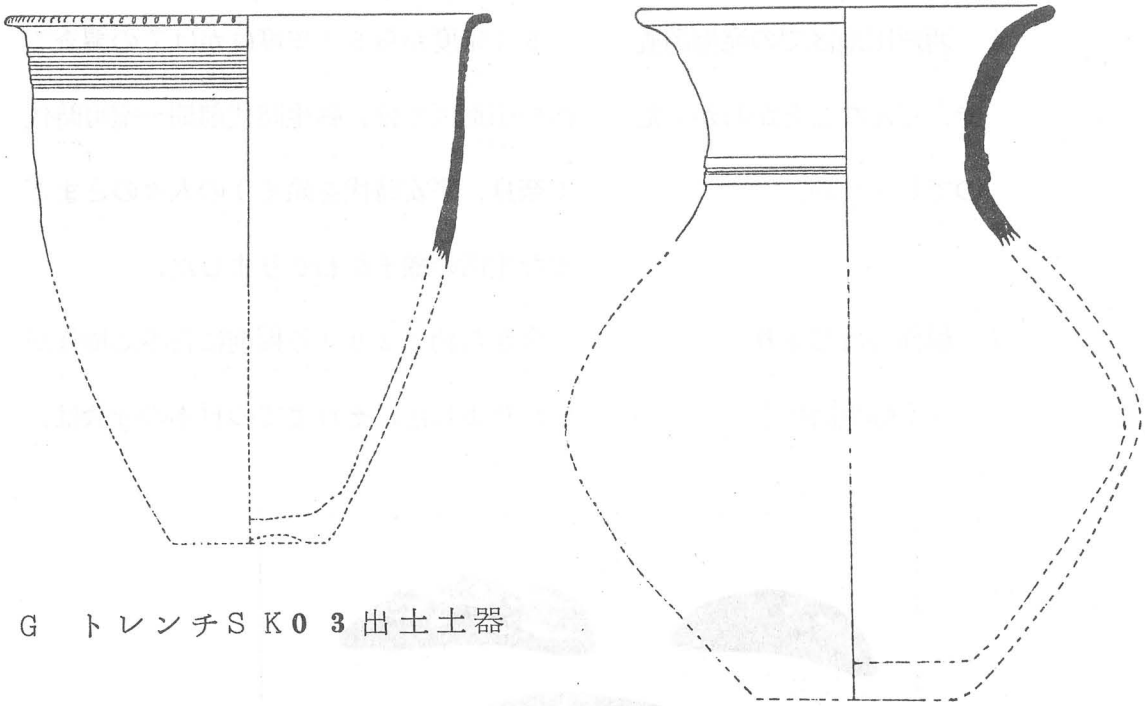


▲竪杵で臼をつく弥生人
神戸市櫟ヶ丘５号銅鐸（国宝）

狩りや木の実を採って生活する，まったく自然に頼った生活でした．

しかし，稲作がはじまり，自然に頼る生活から自然に働きかけ水を利用し，田を作り，自然から食物を得る生活へと変化してゆきました．

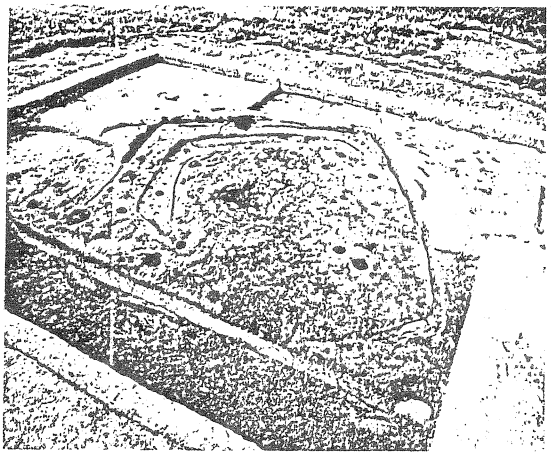
そのころの土器が，Ｇトレンチの土坑（ＳＫ０３）から出土しました．



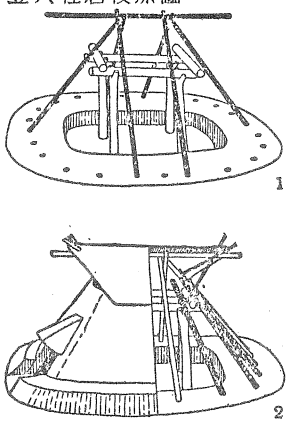
Ｇ　トレンチＳＫ０３出土土器

８　生活の展開

稲作を行うために耕地を広げ，水を引きこむために水路をつくる作業をするためには，土地を耕し，物を収穫し，それを調理したり，保存したりする．



Cトレンチ住居址南から

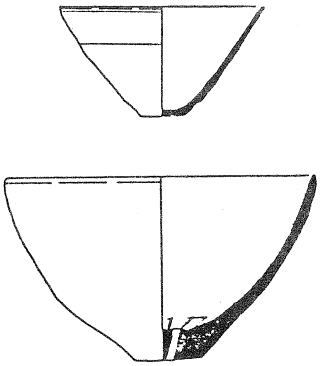


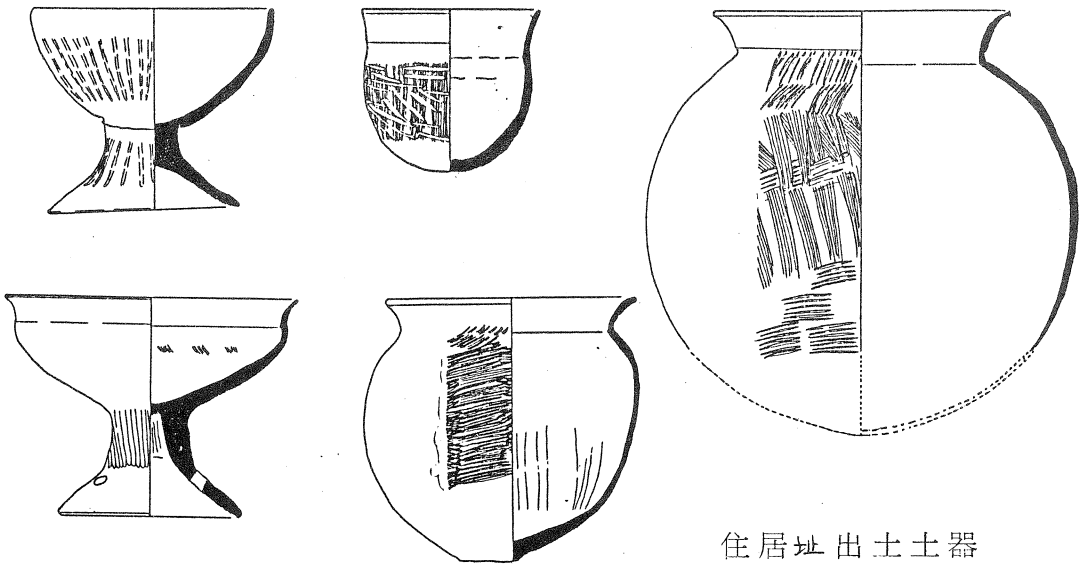
第十八圖　竪穴住居復原圖

人間ひとりの力では，これらのことは不可能です．

人々の大きなまとまりがこのような作業を可能にしました．

Cトレンチでは，そのころの人々の住居址が検出されました．

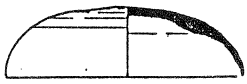




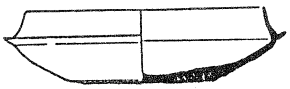
住居址出土土器

9　社会の変化

（古墳時代）



G　トレンチ出土土器



F　トレンチ出土土器

人々の集まりがムラというものを作り出し，ムラ同志で協力する時があれば，耕地や水をめぐって対立することもあったと考えられます．ムラの中でも，ムラとムラとの間でも優劣がつき，年中働いている人もいれば，その働いた人からものをとりあげるだけの人もでてきました．

つまり，平等な社会からカシラと家来という形へと社会の変化がはじまってきたのです．カシラは自分のもつ力を死んだあとにも人々にわからせるために一般の人とは違った大きな墓をつくらせました．この大きな墓に象徴される時代が古墳時代という時代です．

日本のいたる所で，このような墓がつくられ，王を中心とした国がいくつもできはじめました．

この古墳時代のころの溝と土器がＦ．Ｇトレンチで出土しています．

１０　国の統一

（奈良時代）

一方，中国に目をむけると，このころ中国では長い戦乱からようやく国が統一され，それに続く唐が成立していました。

日本は，この中国の王朝に使いを送り，外国の優れた文明をとり入れようとしました．そのひとつが法律によって国を治めるということでした．日本も長い間，多くの国々が争っていましたが，有力な王が国を統一しました．国をまとめるために法律が必要だったのです．そしてまた，国を守る宗教として仏教をとり入れることも行いました．

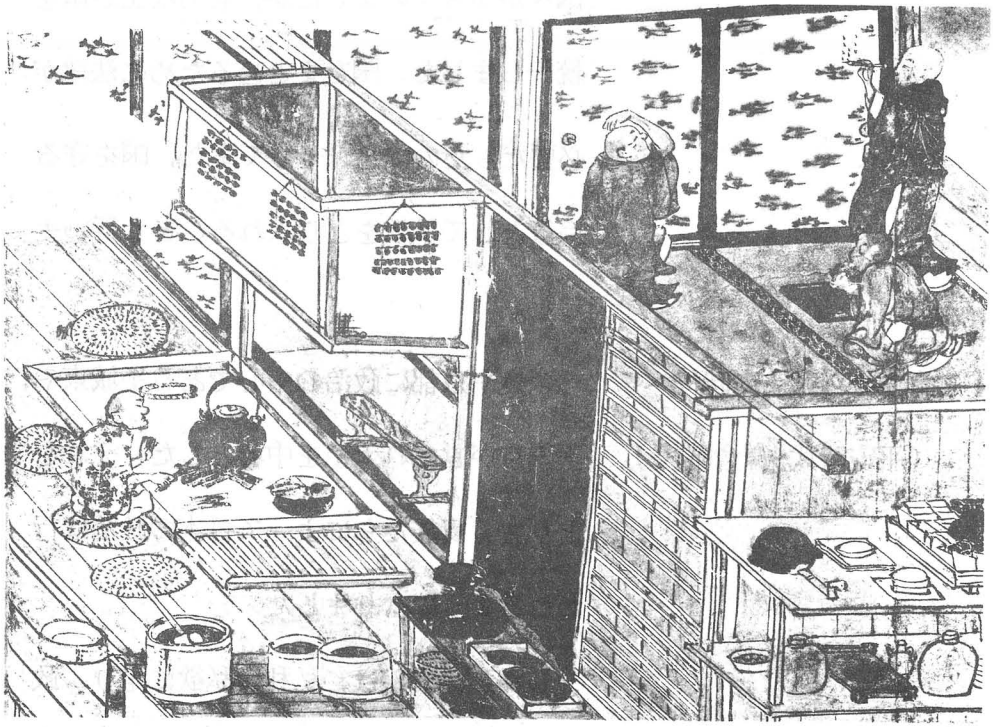
11　貴族から武士の時代へ（平安時代~鎌倉時代）

奈良や京都に政治の中心である平城京や，平安京が営まれ天皇を中心とした，それをとりまく貴族たちによって日本の政治は行われるようになりました．

しかし，貴族は，私利，私欲に走り，政治は腐敗してゆきました．そして貴族たちは自分の土地や財産を守るために武器をもった人々を養うようになりました．これが武士のはじまりです．

武士たちは，こうした乱れた時代の中で土地を確保し，家来を増やし，次第に実力をつけてゆき，武家による政権をうちたてていくようになるのです．

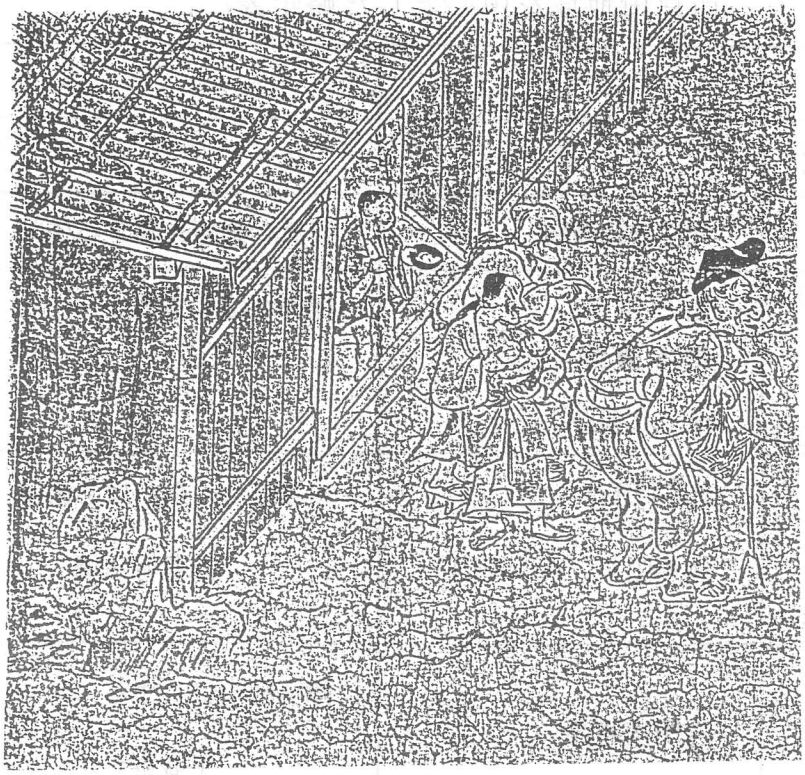
この武士の時代のころの農村の生活をＡ，Ｂ，Ｄのトレンチで垣間見ることができます．



慕帰絵詞より

以上，簡略に日本の歴史を西戸田地区で発見された遺跡を対応させながら述べてきましたが，支配者の内容が変わっても，農村で働く人々の生活というものは，古墳時代からあまり変化せず，草ぶき小屋のような家で寝起きして，朝から晩まで働いていたと考えられます．

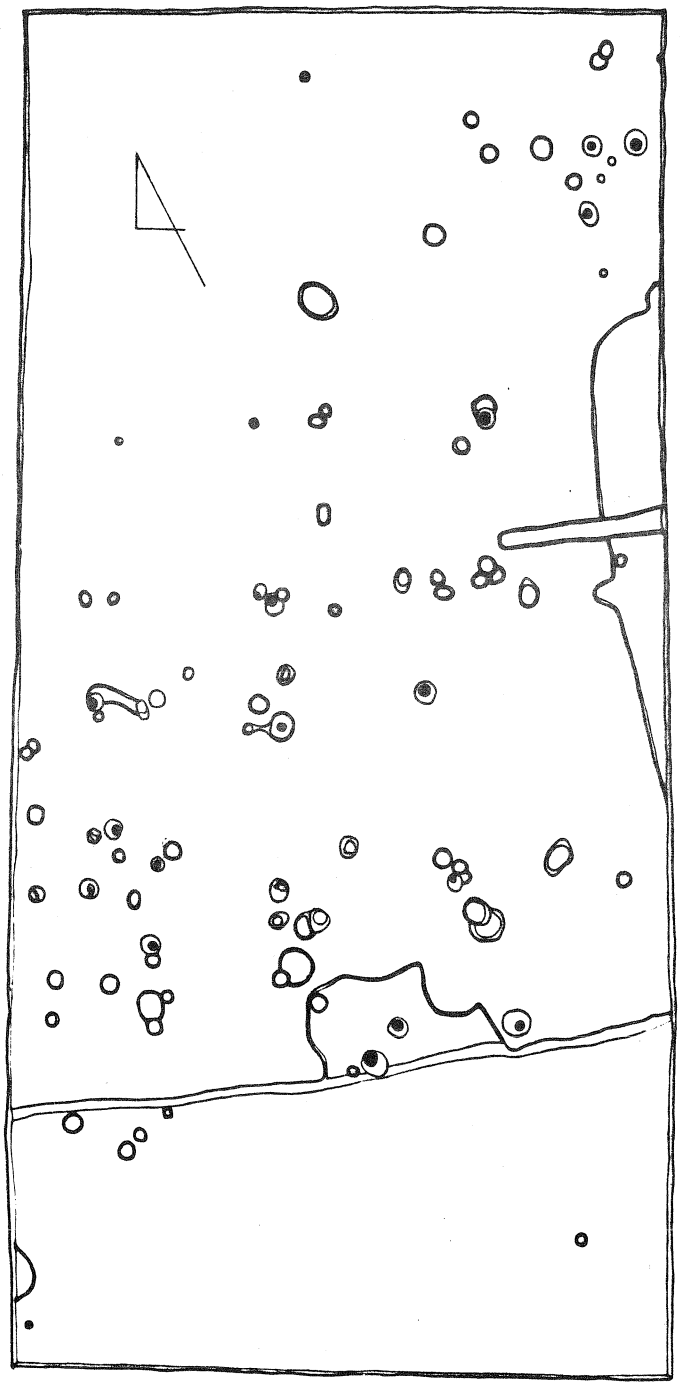
Ａ　トレンチ出土土器



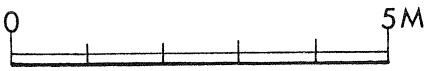
信貴山縁起(平安・12世紀)(奈良・朝護孫子寺)

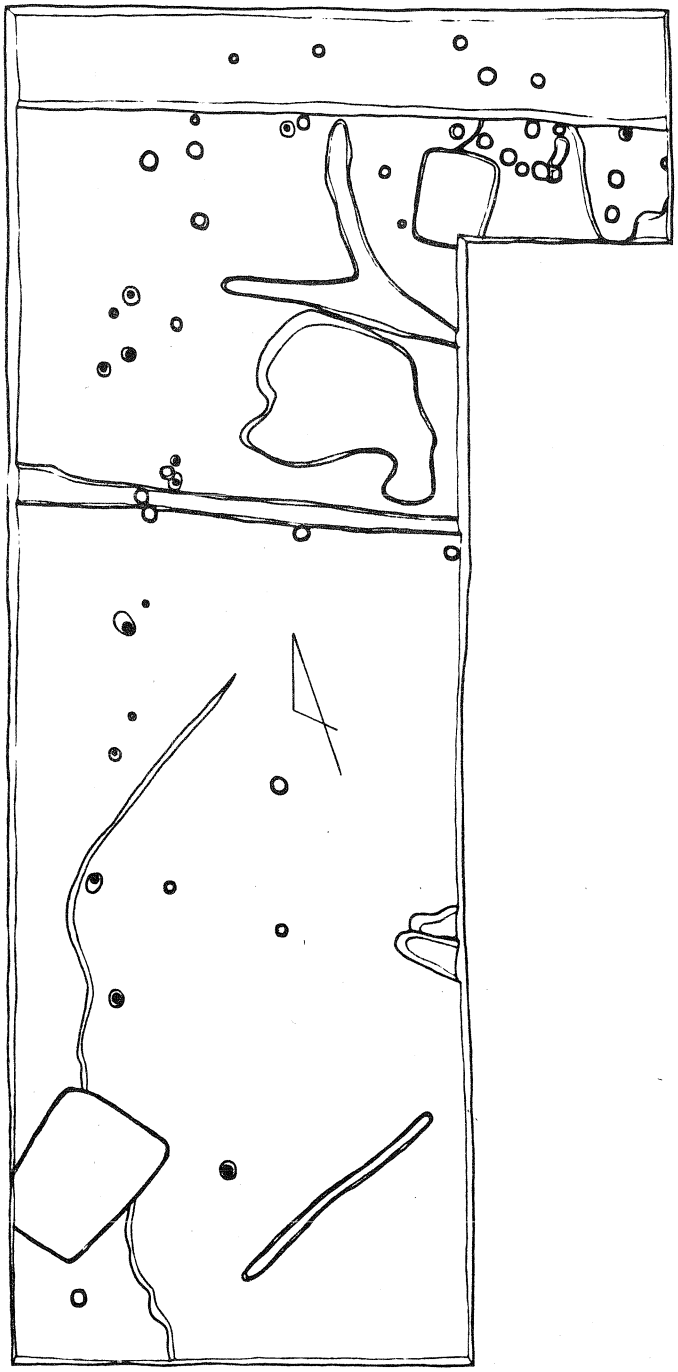
西戸田地域を中心とした略年表

時代区分		
旧石器時代		
縄文時代	元住吉山遺跡	自然の物を採集する生活
BC300 弥生時代 AC300	西戸田G 常本遺跡 池上北遺跡	稲作がはじまる
古墳時代 700	西戸田C 西戸田F，G・黒田	古墳がつくられはじめる 五色塚古墳
奈良時代	吉田南遺跡	律令政治はじまる 平城京
800 平安時代	北別府遺跡	貴族の時代 平安京
1100 鎌倉時代 1300 室町時代	西戸田D 神出古窯址群 西戸田A，B	武士の時代
1600 江戸時代	林崎堀割	江戸幕府がひらかれる

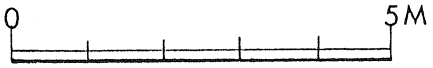


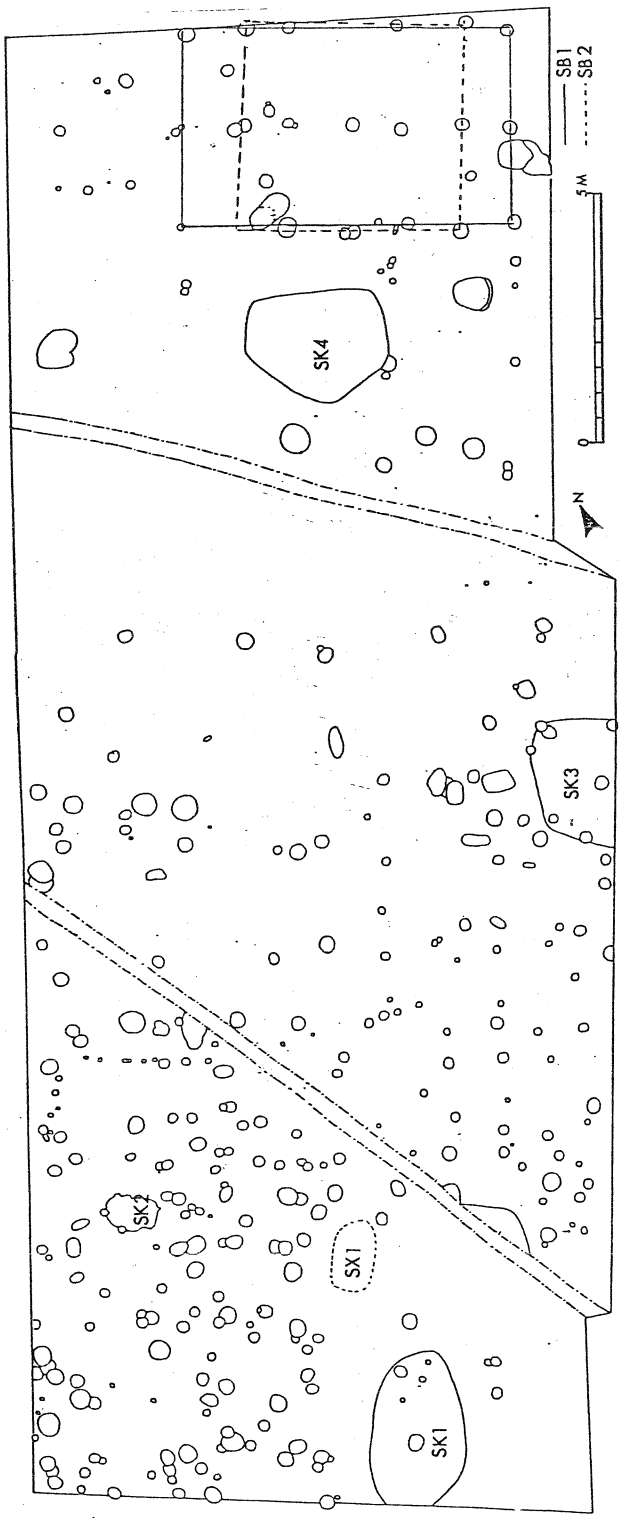
Aトレンチ平面図



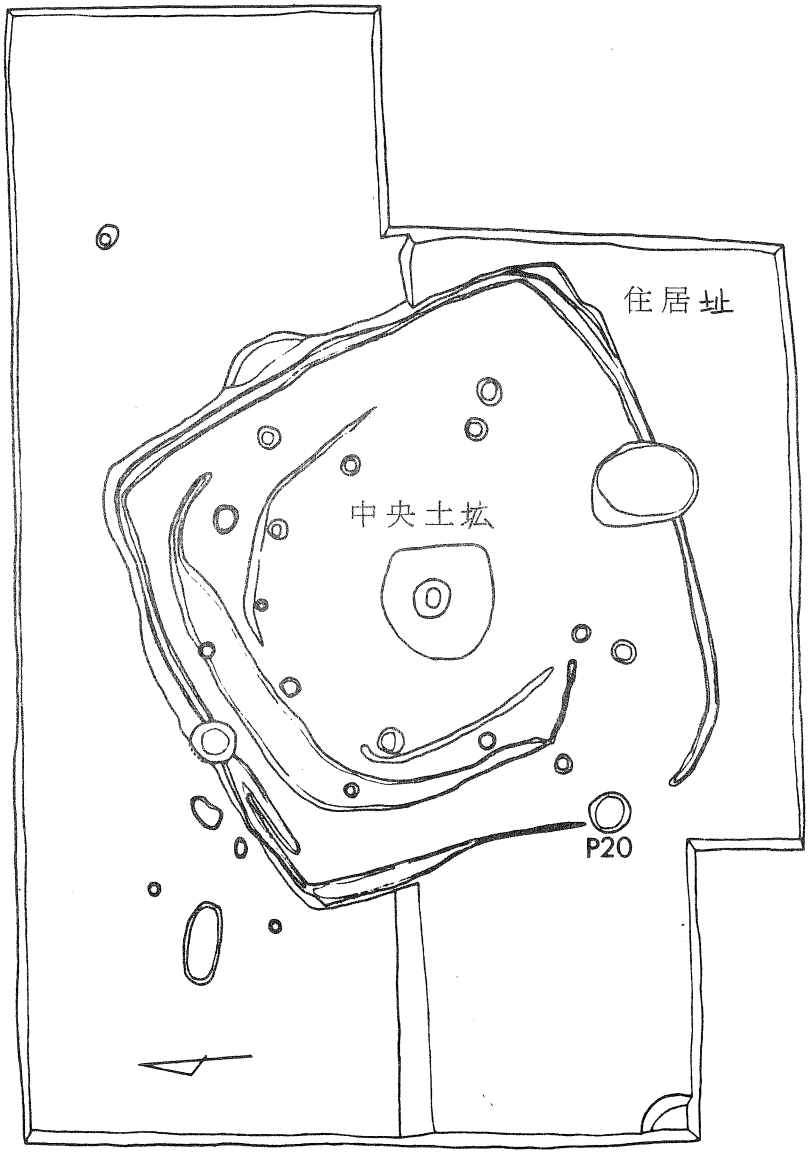


Bトレンチ平面図

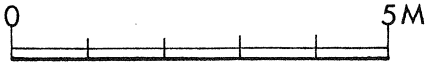


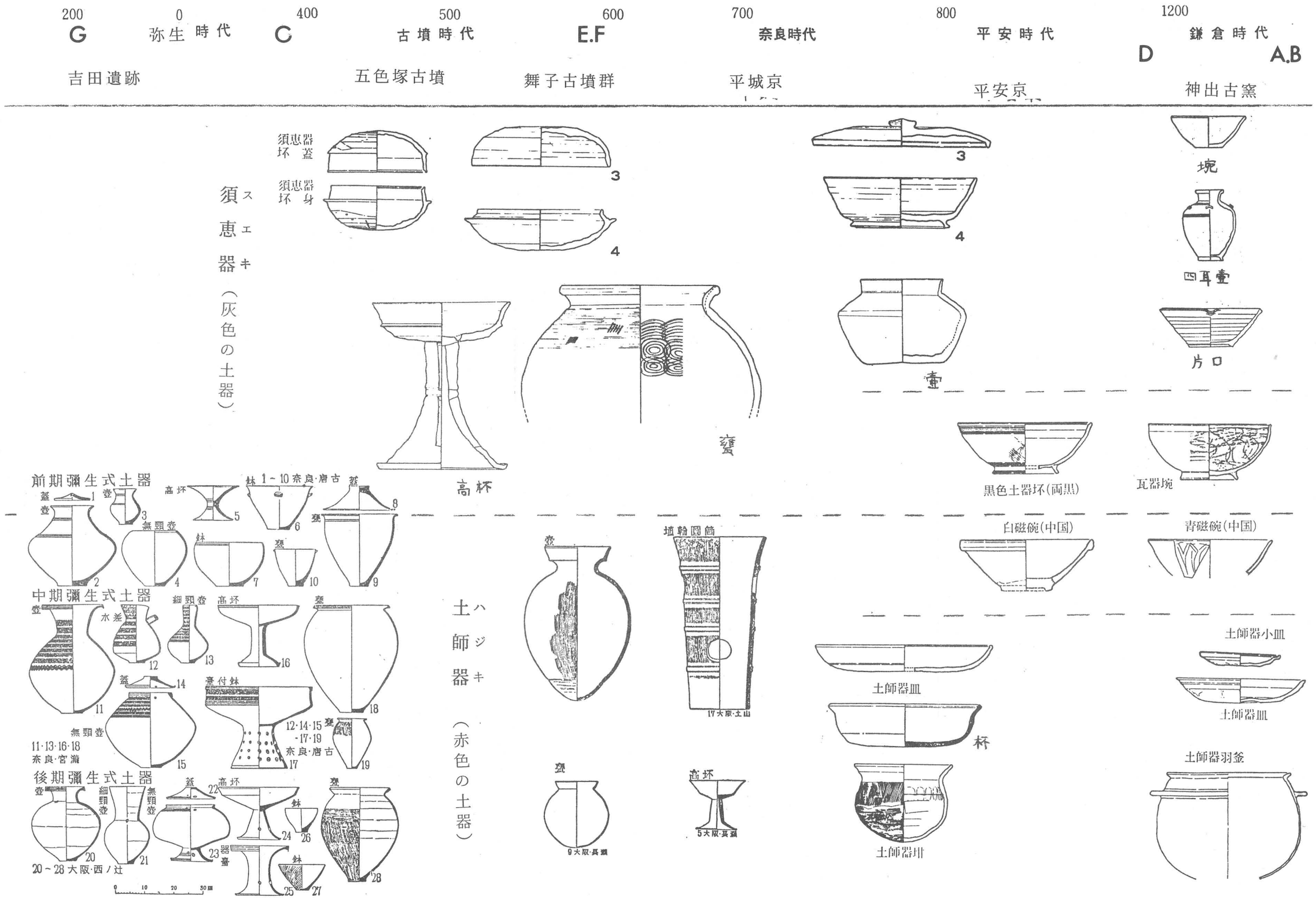


Dトレンチ平面図

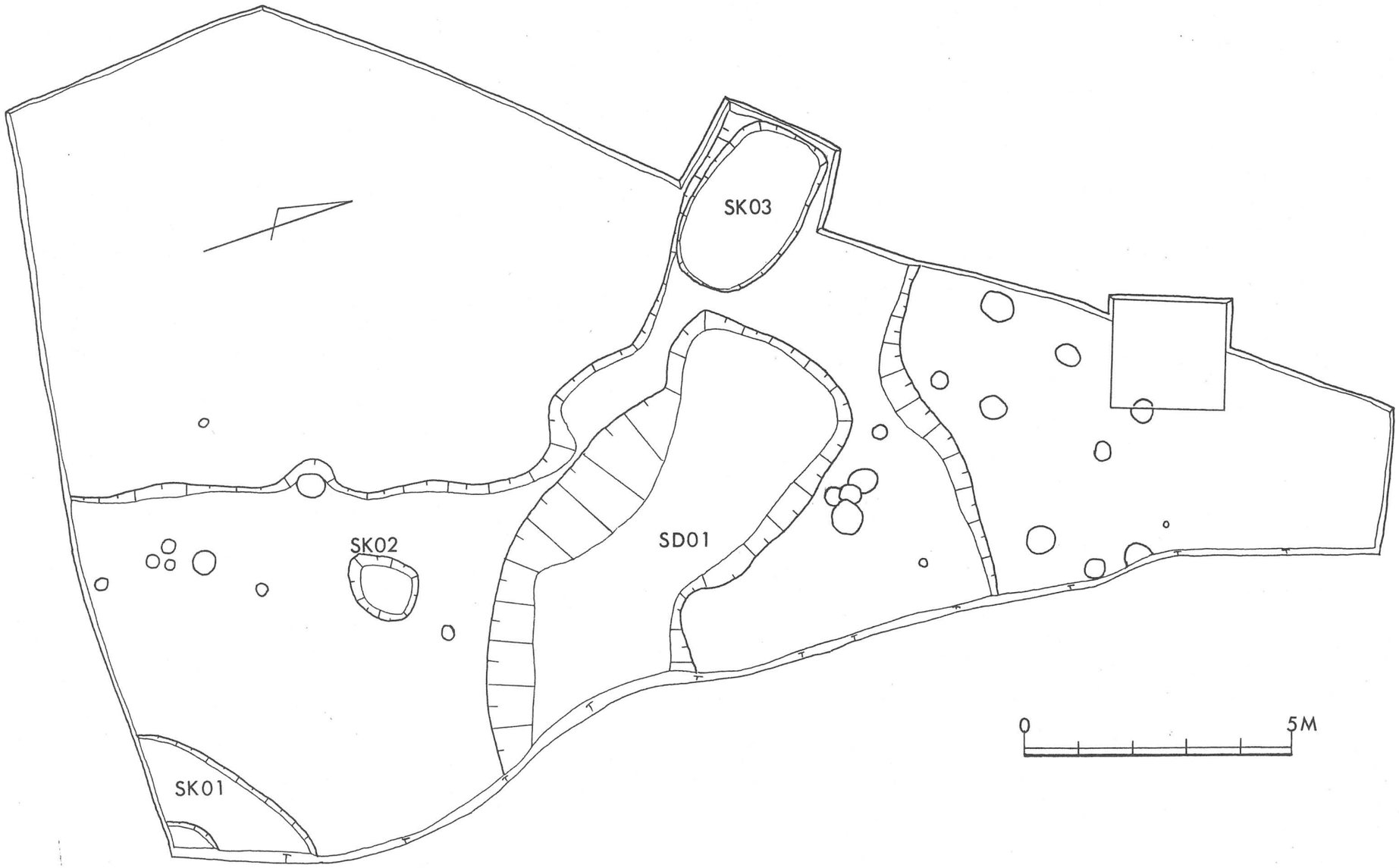


Cトレンチ平面図

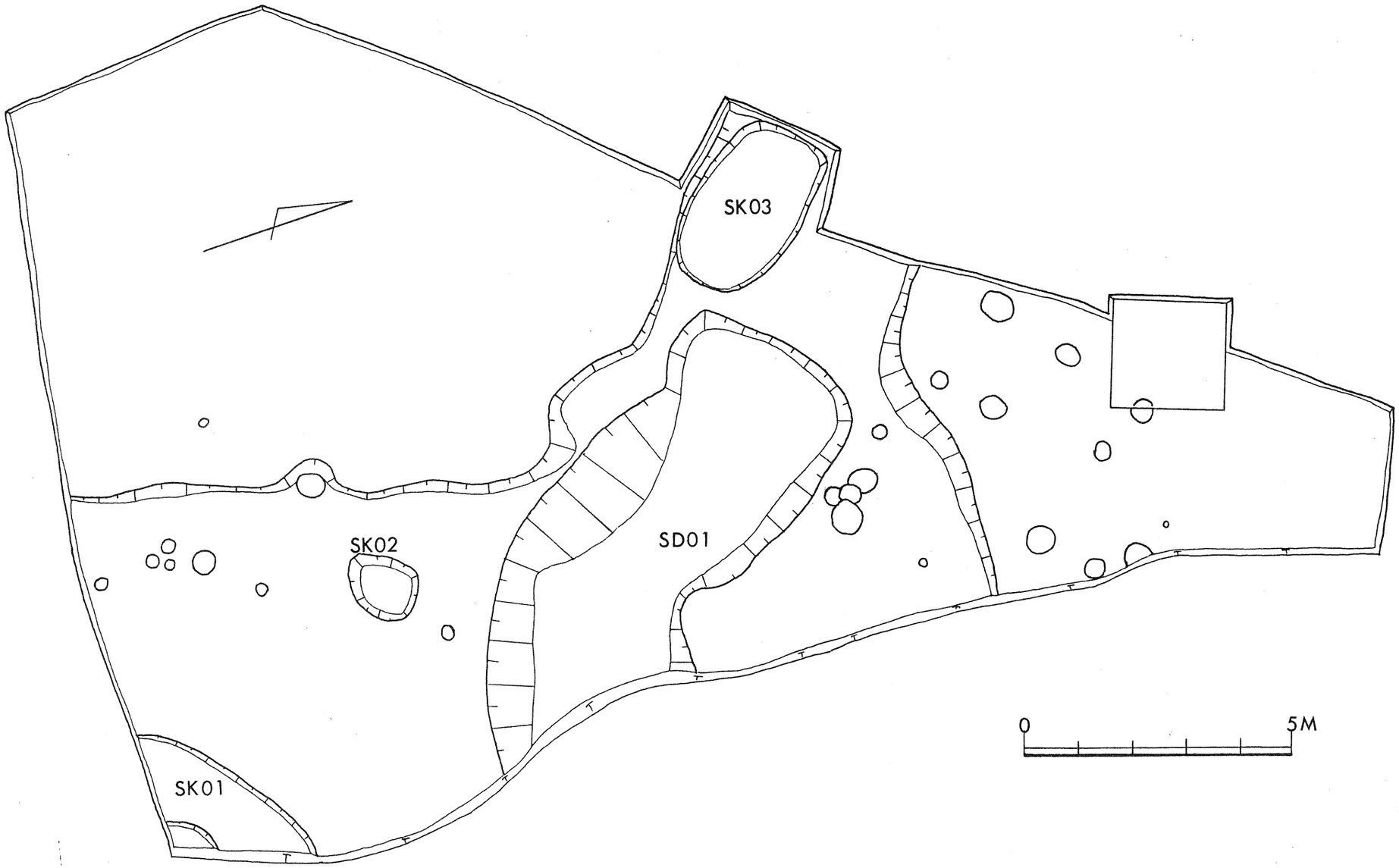



200
G
0
弥生時代
400
C
500
古墳時代
600
E.F
700
奈良時代
800
平安時代
1200
鎌倉時代
D
A.B
吉田遺跡
五色塚古墳
舞子古墳群
平城京
平安京
神出古窯
須恵器（灰色の土器）
スエキ
須恵器坏蓋
須恵器坏身
3
4
高杯
甕
壺
3
4
壺
埦
四耳壺
片口
黒色土器坏(両黒)
瓦器埦
白磁碗(中国)
青磁碗(中国)
土師器（赤色の土器）
ハジキ
土師器
壺
埴輪圓筒
17大阪・土山
甕
9大阪・長瀬
高坏
5大阪・長瀬
土師器皿
杯
土師器坩
土師器小皿
土師器皿
土師器羽釜
前期彌生式土器
中期彌生式土器
後期彌生式土器
1～10奈良・唐古
11・13・16・18
奈良・宮瀧
12・14・15
・17・19
奈良・唐古
20～28大阪・西ノ辻
0 10 20 30㎝

Gトレンチ平面図

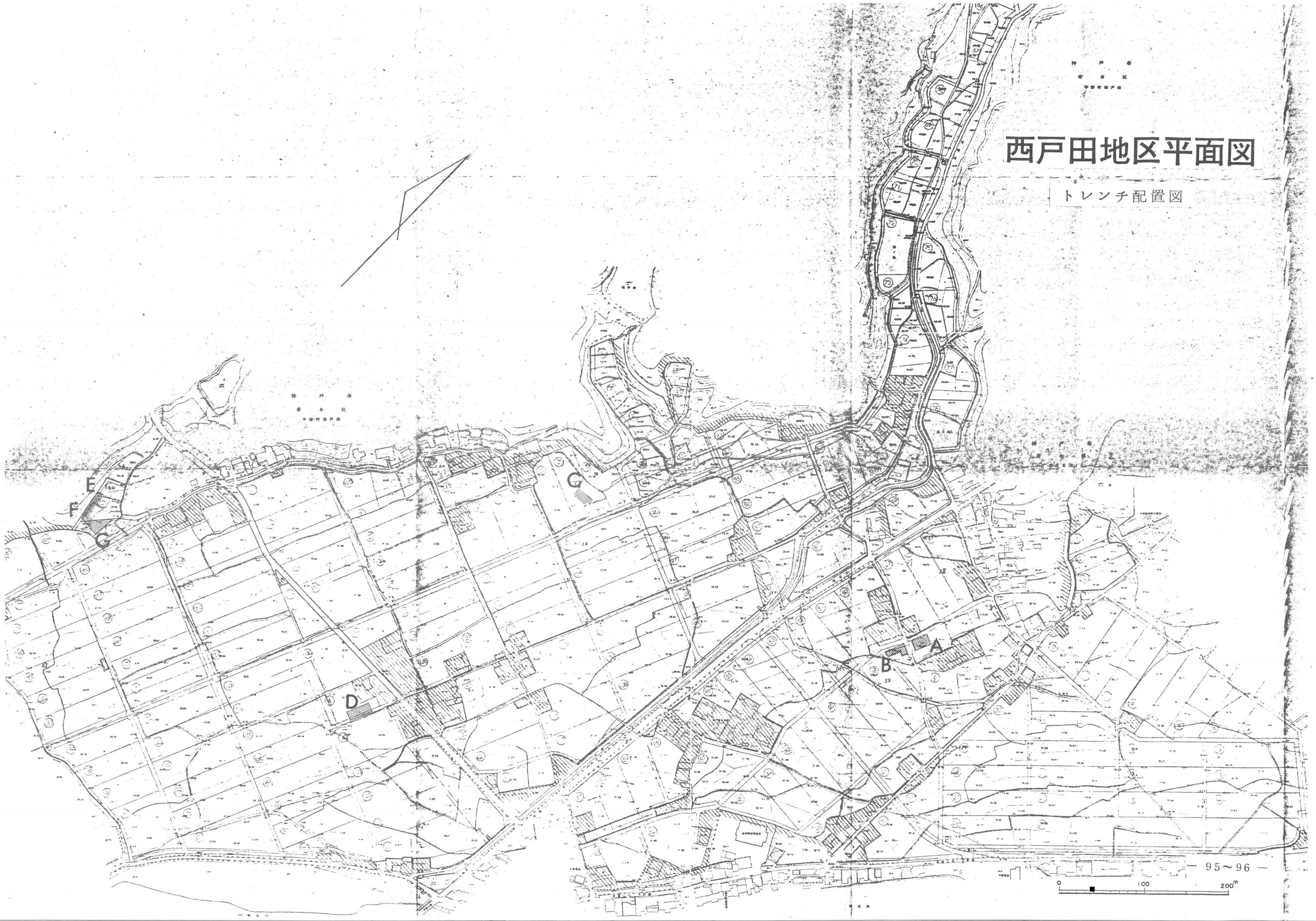


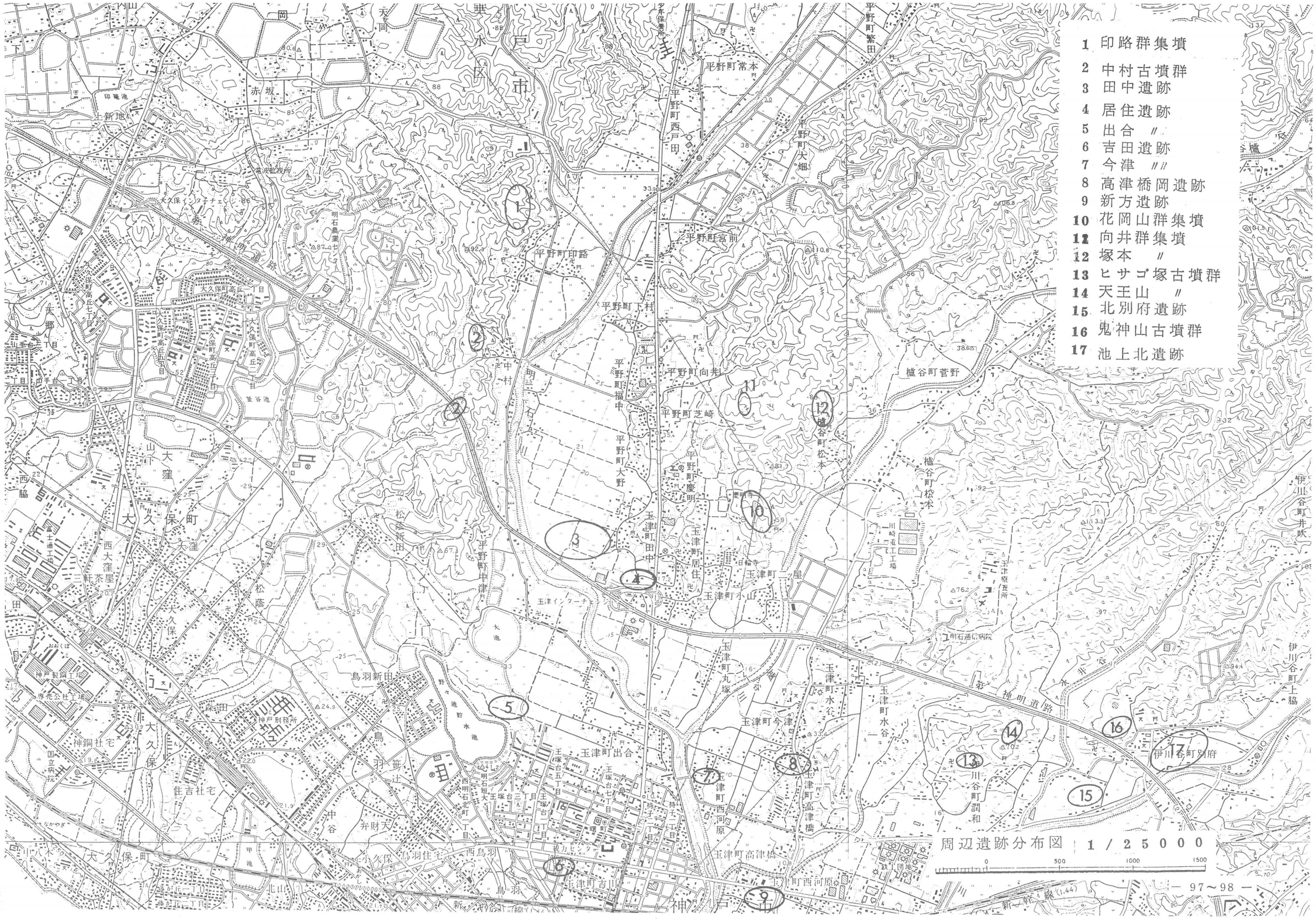
Gトレンチ平面図



西戸田地区平面図

トレンチ配置図




1 印路群集墳
2 中村古墳群
3 田中遺跡
4 居住遺跡
5 出合 〃
6 吉田遺跡
7 今津 〃〃
8 高津橋岡遺跡
9 新方遺跡
10 花岡山群集墳
11 向井群集墳
12 塚本 〃
13 ヒサゴ塚古墳群
14 天王山 〃
15 北別府遺跡
16 鬼神山古墳群
17 池上北遺跡
周辺遺跡分布図 1/25000
0 500 1000 1500
平野町印路
平野町下村
平野町向井
平野町芝崎
平野町大野
平野町福中
平野町常本
平野町西戸田
平野町大畑
平野町宮前
平野町繁田
櫨谷町菅野
櫨谷町松本
玉津町田中
玉津町居住
玉津町二屋
玉津町小山
玉津町丸塚
玉津町今津
玉津町水谷
玉津町出合
玉津町西河原
玉津町高津橋
玉津町吉川
玉津町西河原
伊川谷町別府
伊川谷町上脇
伊川谷町潤和
大久保町
鳥羽新田
鳥羽
神明道路
第二神明道路
新幹線(1.44)
神戸市
明石
大池

昭和57年度　遺跡現地説明会資料

昭和62年10月25日　再版印刷
昭和62年11月１日　再版発行
発行　神戸市教育委員会
神戸市中央区加納町６丁目５番１号
印刷　㈲アロエ印刷
神戸市中央区相生町４丁目４番13号
TEL 神戸(078)371－3831